

第2期中期目標・中期計画・2019年度末評価

北海道情報大学

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
I 大学の目標			
<p>建学の理念「情報化社会の新しい大学と学問の創造」に基づき、本学が果たすべき機能として、1.情報を核とする高度な専門職業人養成機能、2.国際性と豊かな人間性を育む教養教育機能、3.情報に関わる通信教育の拠点機能、4.地域貢献・産学連携機能を更に強化するとともに、本学の「教育目的」について引き続きこれらの周知を図り、今後も本学に対する社会からの要請を真摯に受け止め、必要な場合には更なる見直しを進める。また、各学部・学科、大学院研究科、通信教育部においても、共通教育、専門教育の双方について、教育目的を明確化し、その周知に努める。特に今期においては、Quality Firstをミッションとして教育の質を向上させ、主体性を持った高度ITプロフェッショナルの育成を目指す。</p> <p>中期目標の期間は、平成28年4月1日から平成33年3月31日までの5年間とする。</p>			
(1) 理念、使命、目的、果たすべき機能の明確化			
<p>1 本学の「使命・目標」、「教育目的」が世界的に大きく変動しつつある社会からの要請に応えるものとなっているかを絶えず検討し、必要な場合には見直しを進める。</p> <p>2 各学部・学科・通信教育部の共通教育、専門教育及び大学院研究科の教育目的等を明確にし、必要に応じて見直しを行う。</p>	<p>1-1 外部有識者、同窓生、保護者、企業等からの意見や評価を基に、本学に求められている教育研究と人材育成について検討する。</p> <p>2-1 大学全体の理念、使命・目標、教育目的との整合性を踏まえ、またそれぞれに対する社会からの要請を反映して、必要に応じて、教育目的の見直しを行う。</p>	<p>1-1-1 外部有識者、同窓会、保護者、企業等との懇談を継続して実施するとともに、その意見や評価が十分に反映できるよう、学生や社会の変化、社会のニーズに的確に対応しながら、より一層教育研究の質の向上を図る。</p> <p>【経営情報学部先端経営学科】</p> <p>2-1-1 社会の要請を踏まえて講義内容や講義方法について必要な見直しを検討し、必要な改編を行う。</p> <p>【経営情報学部システム情報学科】</p> <p>2-1-2 社会が求める人材を育成するため、講義内容や指導指針について検討を行う。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】</p> <p>2-1-3 2017年度より、2専攻3コース（診療情報管理、健康情報科学、臨床工学）への編成を実施した。臨床工学専攻においては、国家試験に対応すべく担当教員4名で講義を行う。健康情報科学コースにおいては2019年度より、食品衛生学及び栄養学を専門とする新たな講義を設置する予定で、健康食品管理士養成を目指す。診療情報管理コースでは、診療情報管理士養成とともに、病院一般業務、診療報酬請求事務、医師事務作業補助、医療事務、医療秘書、医療情報技師、医療経営士などに対応できる人材育成を目指す。</p>	<p>2019年9月5日にアドバイザーボード会議を開催して、各アドバイザーから意見を聴取した。また、10月12日には同窓会との意見交換、10月26日には保護者と教員との懇談会を開催し意見を聴取した。さらに2020年2月20日にリサーチ・アドバイザーボードを開催し、研究プロジェクトに関する評価、助言を受けた。</p> <p>【経営情報学部先端経営学科】</p> <p>2021年度カリキュラム改訂基本方針を定めて個々の科目について見直しを行った。</p> <p>【経営情報学部システム情報学科】</p> <p>社会が求める人材を育成するため、2021年度カリキュラムの作成過程において、講義内容や指導指針の基となる育成すべき人材像と修得すべきコンピテンシーについて見直しを行った。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】</p> <p>2017年度より、2専攻3コース（診療情報管理、健康情報科学、臨床工学）への編成を実施した。診療情報管理コースでは、診療情報管理士養成とともに、病院実務の基礎知識修得に向けがん登録概論を新しく開講した。病院一般業務、診療報酬請求事務、医師事務作業補助、医療事務、医療秘書、医療情報技師、医療経営士などに対応できる人材育成も引き続き実施した。2019年度の診療情報管理士認定試験の合格者12人、診療報酬請求業務事務能力認定合格者2人、メディカルクラーク合格者は2年14名、1年7名、高大連携校（江別高校）から4名、医療情報技師合格者2人の好結果を得た。健康情報科学コースにおいては2019年度より、食品衛生学及び栄養学を専門としたライフステージ食デザインを新たに開講し、健康食品管理士養成の強化を行った。2019年度の実験者1名が合格することができた。臨床工学専攻においては、国家試験に対応すべく担当教員5名による講義に加え、国家試験対策、第2種ME、第1種MEの資格試験対策講義を行った。第2種MEでは、3年生受験13名中9名、2年生12名受験中4名が合格した（2019年全国平均33.2%）、また、第1種MEの結果では1名の合格者であった。</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
		<p>【情報メディア学部情報メディア学科】</p> <p>2-1-4 2019年度からのカリキュラムの変更が社会からの要請との整合性に影響を与えるか否かの検討を行う。</p> <p>2-1-5 大学機関別認証評価は、内部質保証を重視した評価へ転換したことに伴い、3つのポリシーを起点とする内部質保証システム(PDCAサイクル)を各学科で構築し、教育に関する全学的な内部質保証を促進するため、教学マネジメントの確立を目指す。</p>	<p>【情報メディア学部情報メディア学科】</p> <p>学科の議論において整合性に影響を与えるかについては、問題がないことを確認した。また社会との関わりのある多くのプロジェクト担当者からも問題の指摘はなかった。</p> <p>【教育研究戦略委員】</p> <p>学修成果を常に念頭に置き、学生や社会の変化に対応した上で、3つのポリシーを踏まえた適切性にかかる内部質保証システム(PDCAサイクル)を構築するために、各学科での検討状況を踏まえて進めることとした。なお、2021年度からの受入れ学生については、本学のアドミッション・ポリシーに掲げる入学者選抜方針について、「学力の3要素」をより多面的・総合的に評価するために変更した。</p>
<p>(2) 理念、使命、目的、果たすべき機能の周知</p> <p>1 学生や教職員への周知徹底を図るとともに、広く学外にも周知する。</p>	<p>1-1 大学案内、学内報「ななかまど」、学生便覧、パンフレット等の各種刊行物、ホームページ、大学ポータル、各種行事における理事長や学長の挨拶、名刺への記載等、多様な機会を通して周知を図る。</p>	<p>1-1-1 現在実施している周知方法、内容について点検し、必要に応じて見直しを行い、改善点を検討する。</p>	<p>学生便覧やパンフレット等の各種刊行物の他、ホームページ、大学ポータル等、昨年同様に行っている限り周知を行った。</p>
<p>(3) HIU Vision 2020の戦略の共有</p> <p>1 大学全体の組織力を活かす戦略的経営を図るため、HIU Vision 2020の戦略を共有し、実現を図る。</p>	<p>1-1 HIU Vision 2020の戦略の共有を図るため、多様な機会を通して周知を行う。</p> <p>1-2 HIU Vision 2020の戦略を定期的に確認し、必要があれば見直しを行う。</p> <p>1-3 HIU Vision 2020の戦略の共有及び評価を改善につなぐためのマネジメントを実現するツールとしてバランスト・スコアカード(BSC)の導入について検討・実施する。</p>	<p>1-1-1 引き続き、HIU Vision 2020の効果的な周知方法について点検し、必要に応じて見直し、改善を図りながら戦略の共有に努める。</p> <p>1-2-1 引き続き、HIU Vision 2020の戦略の進捗状況を確認し、達成に向けて点検・検証を行うとともに、必要があれば見直しを行う。</p> <p>1-3-1 引き続き、バランスト・スコアカード(BSC)の導入に当たっての手順を検討するとともに、併せて他の業績評価システムの導入についても検討する。</p>	<p>2017年度発行の学内報「ななかまど」に「HIU Vision 2020」を掲載したが、引き続き掲載していくかを含め、周知方法を改めて検討することとした。</p> <p>項目ごとの進捗状況を年度計画の中間評価の際に確認したが、必要があれば見直しをすることとした。</p> <p>導入について、再吟味することとした。</p>
<p>II 教育に関する目標</p>			
<p>II-1 学士課程教育・大学院教育に関する目標</p>			
<p>(1) 教育研究組織に関する目標</p>			
<p>◎学士課程</p>			

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
<p>1 適正な学部、学科、専攻、コースがあり、それぞれの教育研究の目的の実現に相応しい構成となっているか定期的に点検し、必要に応じて見直しを行う。</p>	<p>1-1 適正な学部、学科、専攻、コースの構成と定員がそれぞれの教育研究の目的の実現に相応しいかどうかを定期的に確認する。</p> <p>1-2 現行制度、システムの維持・改善を図る。</p>	<p>1-1-1 2017年度の学部・学科の改組改編後の学生の入学状況から、改組改編及び設定した入学定員が適正であったかを継続して検証する。</p> <p>【経営情報学部先端経営学科デジタルビジネス専攻】</p> <p>1-2-1 専攻の教育研究の目的に応じた組織となっているか定期的に点検して必要な見直しを行う。</p> <p>【経営情報学部システム情報学科システム情報専攻、宇宙情報専攻】</p> <p>1-2-2 現行の専攻・コースに関して、改善点を検討する。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科診療情報管理専攻、臨床工学専攻】</p> <p>1-2-3 2017年度から診療情報管理専攻と臨床工学専攻の2専攻、3コース（診療情報管理、健康情報科学、臨床工学）でカリキュラム編成を実施した。学生の募集については、高校訪問、出前授業を積極的に実施し、本学部の教育内容について理解を深め、改善に努める。臨床工学専攻については、北海道臨床工学技士会、日本臨床工学技士教育施設協議会との連携を強化し、病院実習等の円滑な実施体制を確立するため、病院選定を確定する。また、第2種ME試験のための補修講義を引き続き行う。診療情報管理専攻では、診療情報管理士、診療報酬請求事務、医師事務作業補助を目標資格とするが、基礎学力の強化を図るため、取得しやすい資格からの受験を積極的に進める一方、補修講義の導入を実施する。医療情報学科において内容を検討する。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】</p> <p>1-2-4 前年度のコースの改編が社会の要請に適切か否かを検討する。</p>	<p>最終的な結論に至るには複数年の分析が必要であるが、各学科の定員充足に向けた積極的な取組を展開したこともあり、2019年度の入学状況及び2020年度の志願状況を現状分析すると適正であると判断した。今後も定員充足に向けて継続的に検証を進めていくこととした。</p> <p>【経営情報学部先端経営学科デジタルビジネス専攻】</p> <p>2021年度カリキュラム改正基本方針で専攻を「ビジネスデザイン専攻」と「地域ビジネス専攻」とし、コースも「ビジネスデザインコース」と「地域ビジネスコース」として科目群を「ビジネスデザインコース」と「地域ビジネスコース」の2系統と実践プロジェクトのゼミナールで体系化した。</p> <p>【経営情報学部システム情報学科システム情報専攻、宇宙情報専攻】</p> <p>現行の専攻・コースに関して、2021年度カリキュラムの策定において見直し、コース名変更とコースの追加を行った。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科診療情報管理専攻、臨床工学専攻】</p> <p>2017年度から診療情報管理専攻と臨床工学専攻の2専攻、3コース（診療情報管理、健康情報科学、臨床工学）でカリキュラム編成を実施した。学生の募集については、高校訪問、出前授業を積極的に実施し、本学部の教育目標について理解しやすい内容となるよう改善に努めた。臨床工学専攻については、北海道臨床工学技士会、日本臨床工学技士教育施設協議会との連携を強化し、病院実習等の円滑な実施体制を確立するため、病院選定を確定した。第2種ME、第1種ME資格の試験対策と同時に臨床工学技士国家資格取得対策も行った。診療情報管理専攻では、診療情報管理士認定試験対策において、昨年より16コマ対策講義を増やし、学生の苦手とする分野の強化を図った。その他の資格では医療資格支援室において、診療報酬請求事務、医師事務作業補助、メディカルクラークを目標資格とするよう基礎学力の強化支援を実施し、取得しやすい資格からの受験を積極的にかつ学生個人個人に丁寧な指導を行った。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】</p> <p>高校生から学びたいことが選べるとの声聞く一方で、広報課からは選択肢が多く広報が難しいとの意見もあり、次回のカリキュラム変更と併せて対応することとした。</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
<p>1-3 学部・学科の入学定員と入学者数のバランスを調整する。</p> <p>1-4 医療情報学部医療情報学科に臨床工学分野を設置する。</p> <p>2 教授会、教務委員会等の各種委員会及び共通教育協議会を適切に整備し、機能させる。</p> <p>3 CANVAS、POLITE等を中心としたICTが、学生の教育・学習に活用できるように整備し、十分に機能させる。</p> <p>◎大学院</p> <p>1 大学院教育に対する社会の期待に応えるため、多様な修了プログラム・カリキュラム等を大学院の拡充を視野に入れて検討し、質の高い教育を追求する。 ・高度教育研究機能と大学院の充実のため博士課程への道筋を立てる。</p>	<p>1-3 学部・学科の入学定員と入学者数のバランスを調整する。</p> <p>1-4 医療情報学部医療情報学科に臨床工学分野を設置する。</p> <p>2-1 定期的な問題点の洗い出しを行い、必要があれば改善策を検討し、改善を図る。</p> <p>3-1 CANVAS、POLITE等をはじめとした教育・学習システムの機能を拡充するとともに、より幅広い利用を促進するような支援活動や啓蒙活動を続ける。</p> <p>1-1 必要に応じて大学院の拡充等の見直しを検討する。</p> <p>1-2 学部の改編に合わせた分野、プログラムの見直しを検討する。</p>	<p>1-3-1 2017年度の学部・学科の改組改編後の学生の入学状況から、改組改編及び設定した入学定員が適正であったかを継続して検証する。(再掲)</p> <p>【医療情報学部】 1-4-1 2018年度の医療情報学部臨床工学専攻の入学者は28名であったが、さらに、4月から高校訪問、出前授業などを積極的に行い、周知してもらうことにより入学定員の確保に努める。</p> <p>2-1-1 教授会、各種委員会の組織、運営状況等について、2017年度に実施した自己点検を基に継続して検証を行い、必要に応じて統廃合や効率的な運営に向けて改善する。</p> <p>3-1-1 CANVAS、POLITEの教育・学習システムの機能を拡充を検討するとともに、利用促進のための活動を実施する。</p> <p>【研究科委員会】 1-1-1 経営情報学研究科の教育研究の充実を図るとともに大学院の教育体制を評価し検討する。</p> <p>【研究科委員会】 1-2-1 学部からの継続性を考慮したプログラムについて検討する。</p>	<p>最終的な結論に至るには複数年の分析が必要であるが、各学科の定員充足に向けた積極的な取組を展開したこともあり、2019年度の入学状況及び2020年度の志願状況を現状分析すると適正であると判断した。今後も定員充足に向けて継続的に検証を進めていくこととした。(Ⅱ-1(1)1-1-1再掲)</p> <p>【医療情報学部】 2019年度の医療情報学部臨床工学専攻の入学者は34名と増加した。4月からの出前授業では高校生の興味を引くような模擬講義となるよう工夫した。また、関連するイベントへ学生ボランティアを募り、臨床工学専攻の知名度の強化を積極的に行い、入学定員の確保に努めた。</p> <p>2017年度の自己点検をもとに、権限の委譲を含め、各種委員会等の構成員の見直しや統廃合を進め、委員会数の縮減を図った。今後も継続的に統廃合や効率的な運営に向けた改善を図っていくこととした。</p> <p>CANVASに必要な機能を精査し、改善を実施した。POLITEについては、最新のMoodleを採用しバージョンアップを実施し、テストを実施した。</p> <p>【研究科委員会】 教育・研究の充実の観点から、2021年度よりデジタルビジネス分野とアカウントティング・マネジメント分野を統合することとした。</p> <p>【研究科委員会】 2021年度からのデジタルビジネス分野とアカウントティング・マネジメント分野の統合に伴い、学部からの継続性を考慮したプログラムを策定した。</p>
<p>(2) 学生の受入れに関する目標</p> <p>◎学士課程</p> <p>1 アドミッションポリシーの明確化と周知をする。</p>	<p>1-1 アドミッションポリシーを明確にするとともに、必要に応じて、毎年度アドミッションポリシーの見直しを行う。</p>	<p>【経営情報学部先端経営学科】 1-1-1 アドミッション・ポリシーについて必要に応じた見直しを検討し、必要な改編を行う。</p>	<p>【経営情報学部先端経営学科】 アドバイザリーボード会議にて本学科のポリシーを説明し、ご意見を伺った。商業高校では専門的な学びを先行していることから別枠で進めて欲しいとの要望もあり、成績上位層対策としては個別の運用とした。すべての学生を卒業に導くためのアドミッションポリシーの変更など抜本的な対策の必要性については今後も継続検討することとした。</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
<p>2 一般・センター・AO・推薦の各入試の位置づけを明確にして、各学科のアドミッションポリシーに合う人材を社会に広く募集し、確保する仕組みを構築する。</p> <p>3 入試広報を一層充実する。</p> <p>4 受験者層との接触機会を増やし、意欲のある質の高い学生を確保するための各種施策を実施する。</p>	<p>2-1 オープンキャンパス、学内外での模擬授業、iPad出前授業、公開講座、高大連携等で、本学のアドミッションポリシーを社会に周知するための機会を広く提供する。</p> <p>2-2 高等学校から大学教育への円滑な接続のため、高等学校との連携事業を実施する。</p> <p>3-1 入学者受入広報としてWebや各種出版物等を活用するとともに、入試広報体制を充実する。</p> <p>4-1 オープンキャンパス、学内外での模擬授業、iPad出前授業の実施など各種接触者の増加を図る。</p>	<p>【経営情報学部システム情報学科】 1-1-2 引き続き、必要があればアドミッションポリシーの見直しを検討する。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】 1-1-3 引き続き、必要があればアドミッションポリシーの見直しを検討する。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】 1-1-4 2018年度変更したカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーによりアドミッションポリシーの変更を検討する。</p> <p>2-1-1 オープンキャンパスはもちろん大学見学に来た高校生・中学生に対し各学科の模擬授業を行うとともに、詳細な学科説明やアドミッションポリシーについて説明する。更に参加者全員にはアドミッションポリシーが明記されたパンフレットや印刷物を配布し周知を図る。</p> <p>2-2-1 高大連携及び専大連携校を増やすため、本学の教育に関して広報するとともに、出前授業などを増やし体験授業を通して高校教育から大学教育への円滑な接続へと繋いでいく。</p> <p>3-1-1 Webを利用した告知手段を厳選し、新規層の掘り起こしを図る。さらに大学受験層の名簿を持つ業者に対し本学の情報提供が出来ないか調査を進め、実施できる案件から実施していく。</p> <p>【広報連絡協議会】 4-1-1 オープンキャンパスや学内外の模擬授業を増やすのはもちろん、そのために効果的な告知方法を検討するとともに実施に際しては受験生や高校の要望を聞き取り、より充実した内容の模擬授業にして行く。</p>	<p>【経営情報学部システム情報学科】 2021年度カリキュラムの策定に際し、育成すべき人材像、すなわち学科の次期ディプロマポリシーの見直しを行い、それに従って次期アドミッションポリシーにおける対応箇所の変更案を作成した。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】 診療情報、医療情報処理、食・健康と人工知能、生命維持管理をキーワードとして社会変化に対応するためアドミッションポリシーの見直しの検討を行った。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】 3ポリシーを見直し、現状に合うように変更を検討したが、引き続き検討することとした。</p> <p>大学見学の際に行う模擬講義を、1学科に特定するのではなく、全学科で行えるよう調整・実施し、その中で学科説明も行った。また、大学全体説明においてパンフレット等を配布、アドミッションポリシーの周知を行い、高校生及び保護者に対して周知できた。</p> <p>2019年3月に砂川高校と高大連携協定を締結した。本学の教育に関して広報を行い、他の高校にも高大連携を促進し、数校からは具体的な内容についての説明を求められることがあった。</p> <p>2019年度はWebを利用した告知を増やすことで、新規層の取り込みを行った結果、資料請求の数も増加し、さらに志願者の増加に繋がった。</p> <p>【広報連絡協議会】 大学ホームページでの模擬講義（出前講義）の告知内容を充実したことで、高校側より直接電話にて模擬講義の依頼があった。また、高校訪問時に教員からの要望を聞き取りながら実施したことで、模擬講義の依頼も増加した。</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
<p>5 国内外からの優秀な学生の受入れを一層促進し、入学定員充足率を100%とする。</p>	<p>5-1 入学定員の充足に当たり、女子学生数、留学生数、社会人学生数の増加に努める。 ・女子学生の確保(IT女子等) 現在15%→30%(+50名) ・留学生の確保(国際化戦略) 現在1.5%→5%(+12名) ・社会人学生の確保 (+15名)</p>	<p>【経営情報学部先端経営学科】 4-1-2 広報室と連携して受験者の視点と高校のニーズに合った学生確保の施策を行う。</p> <p>【経営情報学部システム情報学科】 4-1-3 オープンキャンパスの模擬授業や出前授業などで、受験生にとって、より分かり易くするための改善案を検討する。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】 4-1-4 北海道内35高校以上で出前授業、学校訪問を計画する。また、引き続きホームページ、高校訪問、大学見学高校生への模擬授業、施設見学者受入れ、出前授業等で発信を行う。また、高大連携で講義を受けている近隣高校の生徒の保護者を対象に、資料の配布を行い学科の就職状況などの情報発信を継続していく。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】 4-1-5 広報室との連携を密にし、オープンキャンパスの模擬授業、ゼミ紹介をはじめ、高校訪問や大学見学時の模擬授業を計画・実施する。</p> <p>【経営情報学部先端経営学科】 5-1-1 女子学生、留学生、社会人学生の増加に向けた具体策を継続拡充して、その内容を必要に応じて見直す。</p> <p>【経営情報学部システム情報学科】 5-1-2 女子学生の入学者増加策について検討する。</p>	<p>【経営情報学部先端経営学科】 オープンキャンパス、岩見沢緑稜、深川東、豊富高校など出前講義、課題研究支援など精力的に実施しており、例年の高校生ビジコンは3校の参加予定であったが新型コロナウイルス対策で中止となった。</p> <p>【経営情報学部システム情報学科】 オープンキャンパスの模擬授業において、昨年度の実績を分析し、受験生にとってより興味のある内容の講義回数を増やし、新たな模擬講義の開発を行い、多様な興味に応えられるよう改善を行った。なお、分かり易さについては、問題ないことを確認した。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】 北海道内延べ29高校で出前授業、大学での模擬授業を行った。ホームページの刷新、高校訪問、大学見学高校生への模擬授業、施設見学者受入れ、出前授業等で発信を行った。また、高大連携で講義を受けている近隣高校の生徒には、医療事務資格取得のための講義を実施するとともに、1月、3月にはメディカルマーク試験に臨む学生や高大連携の高校生に対して補習講義を実施した。受験における手続きを一括で実施し、高校生の受験に向けた事務的支援も行った。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】 広報課との連携を密にし、オープンキャンパスの模擬授業、ゼミ紹介をはじめ、高校訪問や大学見学時の模擬授業を計画・実施した(84回)。</p> <p>【経営情報学部先端経営学科】 女子会を実施し、鳶屋での女性研究者の発表などで情報発信を行った。</p> <p>【経営情報学部システム情報学科】 女子に特化した施策は行わず、広く学生を募集するよう方針を変更し、必要な情報発信を行った。</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
6 学部入試方法・体制の点検を行い、必要に応じて改善を行う。	6-1 入試方法・体制(出題体制等)の点検・見直し等を行う。	<p>【医療情報学部医療情報学科】</p> <p>5-1-3 高校訪問・出前授業を通じて診療情報管理専攻及び臨床工学専攻について女子学生へのアピールを継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のイベント参加、オープンキャンパスや学校祭、高校訪問、出前授業を通じて女子学生にアピールする。 ・スポーツなどを通じて女子高校から勧誘をおこなうことを継続する。 ・サテライトでの公開講座を通じて医療情報学科をアピールを行っていく。 <p>【情報メディア学部情報メディア学科】</p> <p>5-1-4 女性教員と女子学生・女子高生との交流の場の充実を図るとともに、女子学生に魅力的な環境、仕組みを検討し、女子学生の確保を目指す。</p> <p>6-1-1 高大接続改革に伴う2021年度新入試制度の実施に向けて所要の検討、準備を進める。</p> <p>6-1-2 入試問題の作成過程において、見直しが生じた場合は必要に応じて検討する。</p>	<p>【医療情報学部医療情報学科】</p> <p>高校訪問・出前授業を通じて診療情報管理専攻及び臨床工学専攻について女子学生へのアピールを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のイベント参加、オープンキャンパスや学校祭、高校訪問、出前授業を通じて女子学生にアピールを行った。 ・スポーツイベント、ボランティア活動などには女子の学部生を積極的に動員し、女子学生獲得を目指した。 ・サテライトでの公開講座を通じて医療情報学科のアピールを行った。 <p>【情報メディア学部情報メディア学科】</p> <p>本学女性教員達による市民講座は好評を得た。</p> <p>2021年度入学者選抜に関わる新入学試験制度を構築し、詳細情報を公表した。実施に向けた準備を進め、体制を整えた。</p> <p>試験問題作成過程におけるチェック体制等、見直しを要するような事象は発生せず、特段の見直しは行わなかった。</p>
7 AO・推薦での入学予定者の入学前教育を充実する。	7-1 AO・推薦での入学予定者の入学前教育について効果的な在り方を確立する。	7-1-1 これまでの入学前教育の効果を再確認し、現状に即した効果的な入学前教育の在り方について、引き続き検討を行う。	2020年2月20日、21日に実施した入学前教育の効果を再確認するため、従来の要領に従って参加者へのアンケートを実施し、検討材料を収集した。
◎大学院 1 大学院入試方法・体制の点検を行い、必要に応じて改善を行う。	1-1 入試方法・体制の点検・見直し等を行う。	1-1-1 入試科目の変更に伴う影響を検討する。	入試科目の変更に伴う影響は、現在のところ見受けられない。入試体制については、入試問題の出題方法や作成方法、入学者選抜委員会委員の人数構成について見直しを行った。
2 既定のアドミッションポリシーを一層明確にするとともに、学生及び職業経験者の意欲・能力・適性等を多面的に評価する多様な入学選抜を実施する。	2-1 学習能力及び学習意欲を備えた職業経験者・学生・留学生を積極的に受け入れる選抜方法を整備する。	2-1-1 留学生や社会人を考慮したカリキュラムと講義を実施する。	社会人学生の利便性を考慮し、TV会議や講義・実習の集中的な実施を可能とした。
3 社会人学生の受入れを推進する。	3-1 社会人学生の受入れ数増加に努める。	3-1-1 社会人にふさわしい教育プログラムを実施する。	個々の社会人学生の知識とスキルを考慮した教育・研究を実施した。

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
	3-2 社会人のニーズに応えるため、夜間や休日を利用した講義・実習の可能性について検討する。	3-2-1 社会人のニーズに応えた講義や実習を実施する。	個々の社会人学生のニーズに応え、講義・実習の集中的な実施等、実施日に柔軟性を持たせた教育・研究を実施した。
<p>(3) 教育の内容・方法等に関する目標</p> <p>1 共通教育・専門教育における到達目標を設定し、学生自ら学習を進めることができる教育を推進する。</p>	<p>1-1 共通教育・専門教育における到達目標を設定し、学生自ら学習を進めることができる教育を推進する。</p>	<p>【経営情報学部先端経営学科】</p> <p>1-1-1 到達目標について継続、拡充し、学生自ら学習を進めることのできる可視化やフォローの方法について検討を継続し、必要な教育内容、方法の改編を行う。</p> <p>【経営情報学部システム情報学科】</p> <p>1-1-2 主体的学びの促進のために、関連するゼミナール及びPBL(Project Based Learning)科目において到達目標を確認し、改善案を検討する。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】</p> <p>1-1-3 学生には学習到達目標を明示し、さらにゼミナールを中心として学生の主体的学びを促進するために、診療情報管理専攻、臨床工学専攻それぞれにおいて目的を明確にし、達成に向けた講義と学生の主体的に学ぶための資料を提供する。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】</p> <p>1-1-4 プロジェクト系科目を中心に、学生が主体的に学習を進める教育の促進を図るとともに、各学年でアクティブラーニングを実施する。</p> <p>【経営情報学部先端経営学科】</p> <p>1-1-5 コンピテンシーについては社会の要請を見据えながら必要な見直しを継続するとともに、そのコンピテンシーに基づくカリキュラム編成を検討するとともに必要な改編を行う。</p>	<p>【経営情報学部先端経営学科】</p> <p>コンピテンシー達成度の算出方法を改め、公開した。</p> <p>【経営情報学部システム情報学科】</p> <p>2021年度カリキュラムの策定において、関連するゼミナール及びPBL(Project Based Learning)科目の到達目標を決める指針となる、育成すべき人材像と修得すべきコンピテンシーの見直しを行った。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】</p> <p>1、2年生に対しては高位の資格を目標に掲げ、段階的に知識と技術の習得ができるような講義を行った。習得不足の学生に対しては補講時間を多く設定し、理解度の向上に向け支援を行った。3、4年生に対してはゼミナールを中心として学生の主体的学びを促進するために、診療情報管理専攻、臨床工学専攻それぞれにおいて診療情報管理士、医療情報技師、診療報酬請求事務能力認定資格、健康食品管理士、第2種ME、臨床工学技士などの資格に対し目的を明確にし、学力向上に向けた講義と資料提供を伴う補講を行った。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】</p> <p>プロジェクト系科目を中心としたカリキュラムの全コースでの展開が完了した。全体の運用や到達目標における課題も明らかとなった。プロジェクト系科目と他の科目との配置の偏りが履修の選択肢に影響したことから、今後検討していくこととした。</p> <p>【経営情報学部先端経営学科】</p> <p>コンピテンシーの達成度の策定法を定めて、コンピテンシーに基づく2021年度カリキュラム改訂のための科目別状況を収集した。</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
2 コンピテンシーに基づくカリキュラムを編成する。	2-1 コンピテンシーに基づくカリキュラムを編成する。	<p>【経営情報学部システム情報学科】 1-1-6 2017年度カリキュラムにおいて、共通教育・専門教育の到達目標について確認及び改善案を検討し、関連するコンピテンシーの妥当性の確認及び改善案の検討を行う。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】 1-1-7 診療情報管理専攻の診療情報管理コース及び健康情報科学コース、臨床工学専攻の3コースについて、コンピテンシーの妥当性を検討し、到達目標など必要な見直しを行う。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】 1-1-8 2017年度カリキュラムのコンピテンシーを学生に理解させ、主体的な学習へ促す方策を引き続き検討する。</p> <p>【経営情報学部先端経営学科】 2-1-1 コンピテンシーについては社会の要請を見据えながら必要な見直しを継続するとともに、そのコンピテンシーに基づくカリキュラム編成を検討するとともに必要な改編を行う。(再掲)</p> <p>【経営情報学部システム情報学科】 2-1-2 2017年度カリキュラムの実施状況などを踏まえ、改善に向けた検討を行う。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】 2-1-3 コンピテンシーに基づき、学科全体のカリキュラム編成を考慮していく。とりわけ情報処理技術科目については2019年度、受講しやすいようなカリキュラム編成となるよう見直ししていく。</p>	<p>【経営情報学部システム情報学科】 2017年度カリキュラムの到達目標などを見直し、2021年度カリキュラムの策定において、育成すべき人材像と関連するコンピテンシーを改訂した。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】 2021年度カリキュラムの見直し及び策定を行い、さらに診療情報管理専攻の名称変更と診療情報管理コース及び健康情報科学コースに新たに医療情報エンジニアコースを開設することを検討した。そのため3コースのコンピテンシーの見直しと新規策定を行った。臨床工学専攻についてはカリキュラムおよびコンピテンシーの変更は行わず、到達目標などの必要な見直しを行った。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】 情報メディア入門、初修情報メディア学Ⅰなど、情報メディア学科の学びを伝える科目を通して、主体的な学びへの理解を図った。</p> <p>【経営情報学部先端経営学科】 2021年度のカリキュラム変更に向けて、基本方針を定め、各科目の内容、開講と閉講、年次配置変更などを決定した。</p> <p>【経営情報学部システム情報学科】 2017年度カリキュラムの実施状況などを踏まえ、2021年度カリキュラム策定において、コンピテンシーの改訂を行い、それらに基づくカリキュラム編成を行った。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】 コンピテンシーに基づき、学科全体のカリキュラムの見直しの検討を行った。情報処理技術科目については2019年度、受講しやすいようなカリキュラム編成となるよう見直しを行った。また、社会ニーズや学生の習得状況に則した配当年次となるよう見直しを図った。</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
	<p>2-2 各学部学科において、教育課程編成・実施の方針を策定・公開するとともに、各授業科目の到達目標及び授業内容等をシラバスに明記する。</p>	<p>【情報メディア学部情報メディア学科】 2-1-4 昨年度に改定した2020年度カリキュラムの1年次科目及び2年次科目について、『デジタルビジネス(IoT、ビッグデータ、AI)時代にふさわしいカリキュラム編成』となっているか、見直しを行う。</p> <p>2-1-5 学科横断型のプロジェクト科目が初開講となるため、そこでの取り組みを検証する。その上で、enPiTやCDIOの知見を取り入れるとともに対外連携や発表の場として活かせるカリキュラムにむけて、コンピテンシーの変更やカリキュラムの改善の方法について検討し、教育研究戦略委員会を通じて各学科と情報共有を行う。</p> <p>【経営情報学部先端経営学科】 2-2-1 教育課程に関するコンピテンシーについて社会の要請を見据えながら必要な見直しを継続するとともに、そのコンピテンシーに基づくカリキュラム編成を検討し、必要な改編を行う。</p> <p>【経営情報学部システム情報学科】 2-2-2 2017年度の教育課程編成・実施の方針、シラバスの内容について検証する。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】 2-2-3 2019年度も継続してコンピテンシーを反映したシラバスを作成する。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】 2-2-4 昨年度のシラバスの変更が十分か否かの検討を行う。</p>	<p>【情報メディア学部情報メディア学科】 2020年度カリキュラムの1年次科目及び2年次科目について、『デジタルビジネス(IoT、ビッグデータ、AI)時代にふさわしいカリキュラム編成』となるよう、科目設計を行った。</p> <p>前期に開講したプロジェクト科目について検討した。また、2020年度の運営結果も踏まえて、引き続き検討を行う。はこだて未来大学が実施したenPiTのアンケートデータを入手した結果、このような取り組みが上位学生の意欲に結びついていることを確認できた。カリキュラムの妥当性を検討するにあたり、2学期制と4学期制の混在が時間割作成を困難にし、学生の負荷にも悪影響を与えていると考えられる。このことも合わせて各学科、教務委員会との連携を検討することとした。また、キャリア教育とカリキュラムとの関係の中で、正規科目ではないキャリアサポートの出席状況が芳しくないことが報告された。キャリアサポートの位置付けについて、正規科目であるキャリアデザインと合わせて、教務委員会、就職委員会と連携を進められるよう検討することとした。</p> <p>【経営情報学部先端経営学科】 情報と商業の教職課程を維持、推進する方針を定めて担当教員を確保した。</p> <p>【経営情報学部システム情報学科】 2017年度の教育課程編成については、実施状況について振り返り、それを踏まえて2021年度カリキュラムの策定を行った。シラバスの内容は、記述のガイドラインに基づき、改善を図った。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】 2019年度もコンピテンシーを反映した講義内容であったかを検証し、2020年度のシラバスの改善に努めた。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】 シラバスの相互確認を通じて変更が十分か否かを検討をした結果、問題はなかった。</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
3 HIU教育モデルを構築する。	<p>3-1 ピラミッド的序列から抜け出す問題解決型の人材を育成する。</p> <p>3-2 「松尾アカデミー」の創設に係る教育プログラム、実施方法を策定し、実施する。</p> <p>3-3 主体的な学びを実現させる効果的な授業方法(ARCOSモデル、ピア・インストラクション、インストラクショナルデザイン、ルーブリック、ノミナル・グループ手法等)を検討、実施する。</p> <p>3-4 倫理教育の充実を図り、学生として守るべききまり～人として、学生としての品格を身に付けるための11か条～の遵守に向けた指導、取り組みを行う。</p>	<p>3-1-1 引き続き、enPiTやCDIOへの理解を深める取り組みを行うとともに、上位層学生(うきこぼれ)を問題解決型人材として育てる方策を検討する。</p> <p>【松尾アカデミー設置準備室】 3-2-1 (松尾アカデミー創設はペンディングとする。)</p> <p>3-3-1 主体的な学びを実現させる授業方法に関する学内の取り組みや知見と問題点を広く共有し実践を広げるとともに、多様な学生に向けた主体的学びの方策を検討する。</p> <p>【経営情報学部先端経営学科】 3-4-1 「学生として守るべききまり」の遵守を、学生の立場で価値ある行動として納得し、主体的な行動となるように継続的に指導する。</p> <p>【経営情報学部システム情報学科】 3-4-2 「学生として守るべききまり」の遵守指導方法、取り組み状況について点検し、実効のある取り組みがなされるようにする。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】 3-4-3 各ゼミナールにて所属学生に対して欠席などの注意喚起とともに、個々人に具体的目標を持って勉学するように周知を図る。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】 3-4-4 「学生として守るべききまり」の遵守指導方法、取組状況について点検し、実効ある取り組みがなされるようにする。</p>	<p>CDIOのアジア地域ミーティングの報告を谷口准教授がニュースレターに寄稿した。 CDIO国際会議には、穴田教授、福沢教授が参加し、その報告会を実施した。 また、上位層学生が実力に合った授業を効率的に受講できるような仕組みづくりについて検討した。</p> <p>【松尾アカデミー設置準備室】 3-2-1 (松尾アカデミー創設はペンディングとする。)</p> <p>CDIOに関する研修として、学生の学修評価や学修時の自己チェックにも役だったRubricの研修を3月に計画したが、新型コロナウイルス問題のため、2020年度に延期することとなった。 アクティブラーニングの取り組み状況についてシラバスから確認したところ、200科目以上(全体の約6割)が導入していることを確認できた。一方で、知識詰め込み型科目の中にはアクティブラーニングを導入している科目が少なく、効果的な導入方法について教員間の情報共有が必要であることを確認した。</p> <p>【経営情報学部先端経営学科】 学生が遅刻した現場などで折に触れて「学生として守るべききまり」の遵守を指導している。</p> <p>【経営情報学部システム情報学科】 「学生として守るべききまり」の遵守指導方法、取り組み状況について、問題点は発見できなかった。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】 1、2年生には各講義の中で、また3、4年生については各ゼミナールにおいて所属学生に対して欠席などの注意喚起を行うとともに、「学生として守るべききまり」の遵守の指導を行い、さらに個々人に具体的目標を持って勉学するように周知を図った。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】 「学生として守るべききまり」の遵守を学生に周知するよう学科会議にて常に確認した。</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
<p>◎共通教育</p> <p>1 社会人基礎力としての教養を磨くための共通教育を実施するに当たって、科目特性に適合した効果的なクラス展開や指導方法を確立する。</p> <p>2 国際性と豊かな人間性を育む教養教育を軸として、専門教育との整合性やバランスに配慮したカリキュラム体系を構築する。</p> <p>◎専門教育</p> <p>1 カリキュラムポリシーを実現するため、それぞれの科目特性に適合した形態、及び学習指導方法等を充実する。</p>	<p>3-5 すべての学生を卒業に導く育成環境を構築し、推進する。</p> <p>1-1 関連する科目間及び各科目内での担当者の密接な連携を図る。</p> <p>1-2 主体的学びを支援するため、採用可能な科目においてPOLITEの活用を図る。</p> <p>1-3 クラス規模の適正化について検討する。</p> <p>2-1 カリキュラムの目的が達成されているかどうかを検討し、必要に応じて調整、改正を行う。</p> <p>1-1 eラーニング教育、学生体験型、学生参加型科目を充実させる。</p>	<p>【退学率改善委員会】</p> <p>3-5-1 引き続き単位不足学生を卒業に導く支援を各学科と協力していく。</p> <p>【教育研究戦略委員会】</p> <p>3-5-2 2019年度から実施する教養教育科目の必修科目に関するカリキュラム改正と卒業率改善に向けた緊急対策の取組状況を検証するとともに、必要に応じて改善策を検討する。</p> <p>1-1-1 ビギナーズセミナー担当者会議において、授業実施形態等について調整を図る。</p> <p>1-2-1 Polite3の開発にあわせ、可能な科目から移行を検討する。</p> <p>1-3-1 カリキュラム改正に伴い、適正なクラス規模の実現について確認する。</p> <p>2-1-1 新設された「国際コラボレーションB」について、履修者の状況を見ながら引き続き問題点を検討する。また、eラーニングとして実施している「ヘルスリテラシー入門」について、より効果的な方法を検討する。</p> <p>1-1-1 2017年度カリキュラムの1年次科目及び2年次科目についての調査結果に基づいた対応を確認する。併せて、3年次科目についてのeラーニング教育、学生体験型、学生参加型科目の実施状況を確認し、必要があれば関係部署に改善を促す。</p>	<p>【退学率改善委員会】</p> <p>退学率を改善する一環として、2年前より2年生から3年生への進級要件を廃止し、クラス担任とゼミ担当教員が一貫して卒業まで導くよう指導した。また、月1回TCC(トータルケアコーディネータ)との打合せにより、問題のある学生のフォローを行った。</p> <p>【教育研究戦略委員会】</p> <p>「各学科のディプロマ・ポリシーを満たす卒業生を送り出すことができるカリキュラム」を大前提とした2021年度カリキュラム改正の基本方針を決定し、学則の改正を行った。</p> <p>ビギナーズセミナー担当者定例会議を年に2回開催し、授業の実施状況について報告があり、十分な連絡調整を図れた。</p> <p>移行を検討している科目も多い。</p> <p>選択科目の増加、必修科目のスリム化等のカリキュラム改変に伴い、総合的な見地から適正なクラス規模の実現について、検討した。</p> <p>「国際コラボレーションB」は意欲的な学生に2回目のチャンスを与える科目なので、今のところ履修希望はないが、今後も検討課題とする。「ヘルスリテラシー入門」もその状況を精査し、効果的な方法を検討した。</p> <p>シラバス等による実施状況調査を進めてきた。2020年度からeラーニングシステムが刷新されるため、そのシステムでの活用状況を確認することにした。</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
	<p>1-2 PBL(Project Based Learning)、Active Learningを採用可能な科目についてその実現を推進する。</p> <p>1-3 時間割配置、4学期制、授業時間の適正化等を検討する。</p>	<p>1-2-1 2017年度カリキュラムの1年次科目及び2年次科目についての調査結果に基づいたPBL(Project Based Learning)実施に対する対応を確認する。併せて、3年次科目についてのPBLの実施状況を確認し、必要があれば関係部署に改善を促す。</p> <p>【FD委員会】 1-3-1 一部他大学では、学期の週数を減らすことで週末の振替授業などを少なくする試みを実施している。それら動向を調査し、本学での実施方策を検討する。</p> <p>【教務委員会】 1-3-2 ・4学期制について2018年度までの実施状況を検証し、必要があれば改善対策を検討する。 ・2019年度から実施される教養教育科目系のカリキュラム変更の実施状況を確認し、課題等があれば整理する。</p>	<p>シラバス等による実施状況調査を進めてきた。PBLに取り組む学生の中には、同時に複数のPBL科目を履修してしまったり、他科目やゼミ活動などの両立が難しく消化不良を起こす学生も見受けられることが確認できた。効果的な学修に導くための科目配置や履修指導の工夫が必要である。引き続き、2020年度で検討する。</p> <p>【FD委員会】 昨年に引き続き、調査を進めた。併せて、本学で実施する際の1コマ時間の検討、1日のスケジュール、学年暦のシミュレーションを行い、教務委員会に報告した。</p> <p>【教務委員会】 4学期制について2018年度までの実施状況を引き続き検証する為、「4期制と2期制の検証小委員会」を教務委員会に設けた。2020年度の7月頃までに答申を出すよう要請した。 2019年度から実施される教養教育科目系のカリキュラム変更の実施状況に関して、2019年度は教養担当教務委員から課題が出されなかった。</p>
<p>2 4年間を通して効果的なカリキュラム体系を作成し、理解力、応用力、問題解決力を高める。</p> <p>◎大学院 1 大学院に対する新しい学問的・社会的要請に相応しい、体系的な教育方法を柔軟かつ適切に構築する。</p> <p>2 多様化する大学院志願者の能力を多面的に育成する。</p>	<p>2-1 各学科の特徴に応じて、4年間を通したカリキュラムの検討作業を継続する。</p> <p>1-1 eラーニング教育を充実させ、チームティーチング制度やPBLを採用可能な科目についてその実現を推進する。</p> <p>2-1 社会が必要とする高度技術の修得や職業経験者のスキルアップのためのカリキュラムを整備する。</p> <p>2-2 大学院教育の弾力化・多様化・活性化を図るために指導教員の構成を検討する。</p>	<p>2-1-1 新しい教育方法検討小委員会カリキュラム改善WGでの検討内容を各学科等と共有する。</p> <p>2-1-2 科目の追加、変更、削除に対応してナンバリングを更新するように、各学科等へ依頼する。</p> <p>1-1-1 デジタルビジネス分野の新設による、新たな教育手法を実施する。</p> <p>2-1-1 デジタルビジネス分野の新設による、社会人学生にふさわしいプログラムを実施する。</p> <p>2-2-1 チームティーチングを取り入れた教育を実施する。</p>	<p>新しい教育方法検討小委員会カリキュラム改善WGを中心に、enPiTへの参加、CDIO及びeスポーツの調査から得られた成果を整理して、FD・SDフォーラムの資料に掲載することで、結果を各学科等と共有した。</p> <p>カリキュラム改善の時期に合わせて、必要なナンバリングの更新を関係部署に依頼した。</p> <p>デジタルビジネス分野の学生受け入れから2年目を迎え、企業訪問を取り入れた授業や複数教員による論文指導等の教育手法を推進した。</p> <p>デジタルビジネス分野の学生受け入れから2年目を迎え、社会人学生にふさわしいプログラムを展開・実施した。</p> <p>ネットワーク系の演習や論文指導等でチームティーチングを取り入れた教育を実施した。</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
3 学士課程からの継続性を考慮した大学院の充実を図る。 4 国際化を図る。	2-3 留学生に対する教育カリキュラムを整備・充実する。 3-1 学士課程からの継続性を考慮した大学院の充実を図る。 4-1 英語による教育科目を増加させ、留学生・日本人学生の国際性を涵養する。	2-3-1 留学生に対する教育カリキュラムを検討する。 3-1-1 大学院教育のさらなる充実について検討する。特に留学生の日本語教育について検討する。 4-1-1 英語による講義について検討する。	留学生に対する教育カリキュラムとして、日本語の授業の単位認定等を引き続き検討していくこととした。 2021年度からデジタルビジネス分野とアカウンティング・マネジメント分野を統合し、教育体制を充実させるべく各種の検討を行った。留学生の日本語教育については国際交流室と連携を図った。 英語による講義の可能性について検討したが、英語で受講する学生が入学する予定がないので、検討を終了する。
(4) 教育の実施体制に関する目標 ◎学士課程 1 多様化に対応して少人数対応の科目を配置するなど、個々の学生に目が行きとどいた教育を実施するための全学的な取り組みを強化する。	1-1 各教員及び教員相互の自己点検を強化するために、学科長、各種委員会、FD組織など教職員の連携を強化する。	【経営情報学部先端経営学科】 1-1-1 各教員担当の役割で多様な学生個々の教育、指導に当たるとともに、教員相互の情報共有や各種委員会、FD組織や学生サポートセンター事務室など教職員の連携を強化する。 【経営情報学部システム情報学科】 1-1-2 プログラミング教育、退学対策、就職活動等において、関係する委員会、WGと連携を密にし、取り組む。 【医療情報学部医療情報学科】 1-1-3 2019年度も引き続き、すべての学科の学生が受講できる「グローバルヘルスリテラシー」(集中講義)を実施する。 【情報メディア学部情報メディア学科】 1-1-4 情報メディア学科の教員が共有すべき学科運営について共通認識を強固にする。	【経営情報学部先端経営学科】 毎月の学科会議で個々の学生の状況を共有するとともに担任、学生サポートセンター事務室、学生相談室、保健センター、ゼミ教員との間で学生の情報を共有して保護者とも連絡を取って指導に当たった。 【経営情報学部システム情報学科】 退学対策については、1・2年次の必修科目の理解度向上が欠かせないと考え、習熟度別クラスの導入などを行っている。就職活動では、学生の指導や保護者への連絡などの対策をとった。 【医療情報学部医療情報学科】 2019年度も引き続き、すべての学科の学生が受講できる「グローバルヘルスリテラシー」(集中講義)を実施したが、受講状況等を考慮し2020年度からの開講のあり方について検討を行った。 【情報メディア学部情報メディア学科】 学部教授会、学科会議の他に、学科運営WG会議を行い、学科運営における共通認識と方向性を確認し一定の効果を得た。

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
<p>2 教員の年齢構成の適正化、各教員の担当するゼミ生数の平準化及び教員の活性化・スキルアップを図る。</p>	<p>2-1 教員の年齢構成の偏り解消に努め、教員の各学科への適正配置を適宜行える仕組みを検討し、複数の教員が担当可能な専門科目でのローテーションなど柔軟な運営を計画する。</p>	<p>2-1-1 教育研究戦略委員会において教員の人事を検討し、教育研究評議会の議を経て教員人事を進めている現行システムは、各学科の意見を聴取し、また、必要に応じてS/T比バランスを考慮した人員配置を行っていることから十分に機能しており、引き続き現行システムで進めていく。</p> <p>【経営情報学部先端経営学科】 2-1-2 多様な学生個々の指導の充実のために必要な、教員の年齢構成、各教員のゼミや科目の負担を平準化の検討を行い、必要な変更を柔軟に行う。</p> <p>【経営情報学部システム情報学科】 2-1-3 専門分野をバランスよくカバーできるように、適正配置について検討する。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】 2-1-4 専門分野の多様化に伴い、教員の専門性を学生教育に効率的に生かすため、一部の科目でオムニバス方式を計画し、実施する。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】 2-1-5 教員の年齢構成を考慮し、偏りのない教員の配置について検討する。</p>	<p>教員人事に当たっては、十分に機能している現行システムにより、計画的かつ継続的に進めており、今後も引き続き現行システムで進めていくこととした。</p> <p>【経営情報学部先端経営学科】 単純な年齢構成だけでなく、負担の平準化をはかりながら適材適所の担当としてきた。</p> <p>【経営情報学部システム情報学科】 システム情報学科内で、現時点において専門分野はカバーできていることを確認した。また、習熟度別クラスの導入などにより教員負担が増している状況を把握し、改善すべき課題として認識した。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】 専門分野の多様化に伴い一部の科目でオムニバス方式を実施し、教員の偏りの解消や学生への専門教育の効率的運営を図った。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】 情報メディア学部の採用人事は、教養担当が1名、専門担当が1人であった。年齢については、本学部の構成年齢層の中で比較的多い層であった。</p>
<p>3 少人数教育を実施する。</p>	<p>3-1 共通教育科目間の授業内容や教育効果に関する情報を共有し、基礎科目の少人数教育、教養科目におけるクラス規模の適正化を図る。 ・少人数教育を実施する。(ST比 21 → 18)</p>	<p>【経営情報学部先端経営学科】 3-1-1 初年度から各年次の少人数教育を継続実施するとともに、より一層の主体的学びの動機づけを促進するためにクラス規模に関する必要な改編を柔軟に行う。</p> <p>【経営情報学部システム情報学科】 3-1-2 基礎科目のクラス規模について、適正であるかを検証し、必要に応じて適正化を図る。</p>	<p>【経営情報学部先端経営学科】 1年生の自己発見ゼミナールに始まり、2年生のプロジェクトゼミナールから3年、4年のゼミにいたるまで個々の学生の学習状況が見える少人数教育を実践した。</p> <p>【経営情報学部システム情報学科】 基礎科目のクラス規模については、習熟度別クラスの導入により、適正化が図れた科目がある。しかし、一部の基礎必修科目で100人以上のクラスがあり、改善すべき課題として認識した。</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
	<p>3-2 少人数教育を、導入ゼミ・前期ゼミ等、学部の目標に即して改善・充実させ、探求心と実証力、多様な表現力、対話の姿勢と共感性や交渉力を養う。</p>	<p>【医療情報学部医療情報学科】 3-1-3 診療情報管理、健康情報科学、臨床工学の3コースそれぞれに目標となる資格を設定し、学生の学力にあわせて段階的にレベルを上げた教育を行う。診療情報管理士および健康食品管理士試験対策講座、情報科学臨床工学コース少人数講義を実施する。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】 3-1-4 科目数の増減で少人数教育が可能かを検討する。</p> <p>【共通教育協議会】 3-1-5 各科目グループが年度ごとに提出する「教育上の課題」により教育効果の情報を共有し、検討すべき課題を見い出す。</p> <p>【経営情報学部先端経営学科】 3-2-1 初年度から各年次の少人数教育を継続実施するとともに、より一層の主體的学びの動機づけを促進するために必要な改編を継続する。</p> <p>【経営情報学部システム情報学科】 3-2-2 少人数教育（情報専門演習など）の教育内容や指導方法について、検討する。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】 3-2-3 担当ゼミ教員の専門性を生かし、学生の就職・進学を考慮した実践的な専門教育に取り組む。また、所属ゼミから他の専門教員への「ゼミ留学」を認めていく。</p>	<p>【医療情報学部医療情報学科】 診療情報管理、健康情報科学、臨床工学の3コースそれぞれに目標となる資格を設定し、学生の学力にあわせて段階的にレベルを上げた教育を行った。医療事務資格においては、医療資格支援室での個別指導の強化により基礎的知識のみならずハイレベルの知識の修得を実施した。診療情報管理士認定試験対策講座、健康食品管理士試験対策講座、第2種ME、第1種ME、臨床工学技士対策講座においても少人数講義による補講を行った。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】 現状の教員数と学生数の人数比では、少人数教育を実現することは難しいが、今後も検討していくこととした。</p> <p>【共通教育協議会】 2020年度のクラス編成について、最大限の少人数クラスを維持するため、クラス規模の適正化に努めてきた。2020年度に向けて、「教育上の課題」について、各科目グループの代表者を中心に科目担当者との綿密な連絡調整を図り、教育効果の情報や課題を集約した。</p> <p>【経営情報学部先端経営学科】 初年度からの少人数教育を個々の教員に任せるのではなくピアレビューや相互の情報共有で学習目的や到達目標に合致した内容になっているかなど必要な改訂を行っている。今年度は1年生向けの自己発見ゼミナールではスタンフォードのライフデザインを取り入れて人生設計を考えさせたり、中だるみになる2年生では動機づけを狙って江別市の観光局から参加してもらい江別の観光施設を巡って振興策を提言するなどリアルなプロジェクトを行った。</p> <p>【経営情報学部システム情報学科】 少人数教育（情報専門演習など）の教育内容や指導方法について、主体的な学びを目指し、個々の教員が新たな内容や指導法を試みた。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】 担当ゼミ教員の専門性を生かし、学生の就職・進学を考慮した実践的な専門教育に取り組んだ。また、所属ゼミから「がん登録」や「人工知能を用いたプログラミング研究」などを希望する学生に対し、他の専門教員への「ゼミ留学」を認め、学生の希望に即した教育を行った。</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
<p>4 ICTの利活用と教育方法の改善によるFD及び教育イノベーションを推進する。</p>	<p>4-1 教育GPで開発したFD支援システムCANVASを活用し、授業改善のためのPDCAサイクルの定着を図る。</p> <p>4-2 授業改善のための諸制度・システム、ファカルティレポート等より一層充実させ、教育の質を高めるために必要な情報の共有化を図る。</p>	<p>【情報メディア学部情報メディア学科】 3-2-4 専門ゼミの人数配分を均一化することにより引き続き努める。</p> <p>【共通教育協議会】 3-2-5 ビギナーズセミナーにおける効果的な少人数教育に向けて、担当教員間で実施方法等の情報共有に努める。</p> <p>4-1-1 CANVASを利用した授業改善の活動を引き続き実施する。必要に応じて、システムの改善を行う。</p> <p>4-2-1 授業評価アンケートにおいて、「授業評価アンケート実施報告書」を継続使用して回収率(=回答数/実施時の出席学生数)100%の定着を図る。</p> <p>4-2-2 2018年度まで実施してきたピアレビューの方法を踏襲し、100%の教員が参加できるように引き続き支援する。</p>	<p>【情報メディア学部情報メディア学科】 ゼミの定員を設定し、上限と下限を設けているが、極端に少ないゼミもあり、均一化は実現できなかったが、極端な差は是正された。</p> <p>【共通教育協議会】 ビギナーズセミナー担当者定例会議において、実施内容の共通化を点検しながら、担当教員間で実施方法について情報の共有化に努めた。</p> <p>CANVASを利用した授業改善活動を引き続き実施し、システム改善を行うための調査を実施した。</p> <p>「授業評価アンケート実施報告書」を継続使用することにより回収率(=回答数/実施時の出席学生数)100%の定着を図った。通年での回収率は99.12%となり、定着が図られている。</p> <p>2018年度まで実施してきたピアレビューの方法を踏襲し、100%の教員が参加できるように支援した結果、100%の教員が参加した。</p>
<p>5 個々の学生のラーニングアウトカムや活動を総合的に把握し、学生の意欲向上につながる高度なICT教育環境を構築、整備する。</p>	<p>5-1 「教える」から「学ぶ」教育方法の調査・研究を進めながら段階的に学習環境を整備し、実施する。 ・POLITE、CANVAS、主体的学びiPad等を整備する。 ・モバイル端末保有率を100%とする。</p> <p>5-2 学生を大切に育てる環境として、ICTを活用しながら教職員と学生(学習コンピュータ等)が協同する仕組みを検討し、実施する。 ・スマートキャンパス化、IoT、ビッグデータ、見える化を図る。</p>	<p>5-1-1 POLITE、CANVASを利用したより効果的な学習環境について、引き続き検討を行う。</p> <p>5-1-2 引き続き、プログラミング教育を改善するための教材、教授法の情報、演習環境をワーキンググループで集約し教員間で共有する。共有された情報を活用し、各学科で実施されているプログラミング教育の目的や実情にあわせ授業を改善する取り組みを全学的に促進する。</p> <p>5-2-1 「学生参加型授業(アクティブラーニング)を支援、推進するための施策」及び「それらを実施するためのICT環境及びツールの整備」の一環として、リコー(株)と共同で実証実験を行っている学生参加状況の把握が可能なアプリを使ったアクティブラーニングの教授法を検討し、普及に努める。</p>	<p>POLITE、CANVASを利用した効果的な学習環境について、引き続き検討することとした。</p> <p>プログラマー養成だけでなく、ユーザー側としてのプログラミングの基本教育についても検討する必要があるが、十分な議論が進められなかった。プログラミング教育のためのゲームを開発中であり、その検証も含めて2020年度で検討する。</p> <p>実証実験を進めてきたが、リコーアプリの本学への導入は見送られた。</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
	<p>5-3 GPAの積極的活用とGPA導入に伴う諸制度及びシステムの充実を図る。</p> <p>5-4 個々の学生のコンピテンシーの達成状況を可視化し、学習意欲の向上を図る。</p>	<p>【教育研究戦略委員会】</p> <p>5-3-1 GPAの信頼性を高めるために試行の状況を検証し、その上で引き続き活用について検討する。</p> <p>【FD委員会】</p> <p>5-4-1 科目の単位取得との関連以外のコンピテンシーの達成度(ルーブリック等を参考に)の提示方法等について、引き続き検討する。</p> <p>【経営情報学部先端経営学科】</p> <p>5-4-2 コンピテンシーの達成状況を可視化する方法について継続的な見直しを行い、学習意欲の向上に寄与する仕組みの検討を行い、必要な改編を行う。</p>	<p>【教育研究戦略委員会】</p> <p>GPAの信頼性を高めるため、成績評価に「履修中止」と「未評価」を2020年度から導入することを教務委員会にて決定した。</p> <p>【FD委員会】</p> <p>科目の単位取得との関連以外のコンピテンシーの達成度の提示方法等について検討した。</p> <p>【経営情報学部先端経営学科】</p> <p>コンピテンシー達成度算出方法を見直して、学生に公開した。</p>
<p>◎教職課程</p> <p>1 教職課程の教育体制を充実する。</p>	<p>1-1 教員養成を担う教員の専門性の向上を図る。</p> <p>1-2 各学科における教科専門教育の教育体制の充実を図る。</p> <p>1-3 教職課程の運営体制の充実を図る。</p>	<p>1-1-1 教員養成を担当する教員の専門性を向上するための取り組みを検討し、実施する。</p> <p>1-2-1 各学科における教科専門教育の教育体制の充実方策を検討し、実施する。</p> <p>1-3-1 新教職課程の運営体制の充実方策を検討し、実施する。</p>	<p>全国私立大学教職課程連絡協議会大会（5月、近畿大学）に1名参加し、教職課程の編成や運営の全国的な動向について把握して持ち帰り、教職課程担当教員が共有するとともに、日常的なコミュニケーションを密に図りながら、それぞれの専門性やチームとしての指導力等の向上に努めた。</p> <p>教育実習報告会や教職実践演習の模擬授業の実施時に教科専門教員の参加を呼びかけたり、教職課程委員会の会議の中で、教科専門教育の教育体制の充実に向けての課題や解決の方向性を共有しながら、課題解決に努めた。</p> <p>定例の教職課程委員会や教職専門教員3名による月例の教職ミーティングの会議の中で、直近の課題を協議して、解決を図った。さらに、教務課担当職員との日常的な連携がなされ、教職課程の運営体制の充実に資するものとなった。</p>
<p>◎大学院</p> <p>1 大学教育や職業経験者から大学院教育への円滑な接続を図り、大学院の教育目標を達成するために、学習の継続性を確保する。</p>	<p>1-1 大学院教育と学士課程教育の連携体制を整備し、大学院教育に対する職業経験者の多様な期待に対応する。</p>	<p>1-1-1 職業経験を採り入れた教育を実践する。</p>	<p>ケーススタディ、フィールドワーク等、教員の職業経験を取り入れた授業を行った。</p>
<p>（5）教育の成果に関する目標</p> <p>◎共通教育</p>			

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
<p>1 学士に相応しい基礎学力と教養を身に付けさせる。</p> <p>◎専門教育</p> <p>1 卒業時に修得すべき内容を明らかにして、学士の質を保証する。</p> <p>◎大学院</p> <p>1 大学院教育に対する社会の多様な要請に相応しい学位を授与する。</p>	<p>1-1 基礎学力、論理的思考力、国際感覚、情報リテラシー、将来のキャリアを準備する能力等を身に付けさせるため、共通教育科目の充実を図る。</p> <p>1-1 卒業試験や卒業時に修得すべき内容等の検討により学士の質を保証するための具体策を設定する。</p> <p>1-1 修士論文と特定課題研究の審査基準を明確化する。</p>	<p>1-1-1 論理的思考力、情報リテラシー等を身に付けさせるため、共通教育科目について、実施状況を確認する。</p> <p>【経営情報学部先端経営学科】</p> <p>1-1-1 卒業時に修得すべき内容及びその可視化について継続的に検討するとともに学士の質の保証の具体策について検討し、必要な改編を行う。</p> <p>【経営情報学部システム情報学科】</p> <p>1-1-2 卒業時までまでに修得すべき内容について、検討を行う。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】</p> <p>1-1-3 2専攻3コースを意識し、それぞれの専攻について入学から卒業までの授業展開の具体的なモデルの作成に着手している。早くから目標を設定させて、診療情報管理士試験対策講座、また、臨床工学では、第2種ME試験、国家試験対策を意識した講義を継続していく。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】</p> <p>1-1-4 2020年度より行う履修モデルが学士の質の保証を実現できるかについてさらなる検討を行う。</p> <p>1-1-1 2018年度に策定した新たな審査基準に従い、審査を行い評価する。</p>	<p>今年度大幅なカリキュラム改変に伴い、履修指導モデルを新入生に提示し、丁寧な指導で、学生の意欲を喚起した。また、共通教育科目について、履修状況を確認した。</p> <p>【経営情報学部先端経営学科】</p> <p>コンピテンシー達成度の可視化については新たな計算法を策定して開示した。人材像からコンピテンシーとディプロマポリシー、それを達成するためのカリキュラムとアドミッションのポリシーの全体の整合性を見直して質の保証に必要な対策を順次実施した。前期はアドミッションのアドバイザーボードで助言をいただき成績上位層の対策としては個々の科目での対応とした。</p> <p>【経営情報学部システム情報学科】</p> <p>卒業時までまでに修得すべき内容については、2021年度カリキュラム策定の際に、育成すべき人材像と修得すべきコンピテンシーの見直しとして、検討及び改善を図った。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】</p> <p>2専攻3コースを意識し、それぞれの専攻について入学から卒業までの授業展開の具体的なモデルの作成に着手した。早くから目標を設定させて、診療情報管理士、健康食品管理士、また、臨床工学では、第2種ME、第1種ME、臨床工学士の試験対策を意識した講義および補講を行い資格取得の支援を行った。また、eラーニング推進センターの協力のもとに、臨床工学士国家試験対策のeラーニング講座を準備した。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】</p> <p>質の保証をGPAで判断したいが、現状では不可の理由が判断できない。2020年度以降のGPAの付与方法にて対応することとした。</p> <p>2018年度に策定した新たな審査基準に従い、学位論文等を審査し、修士の学位を授与した。</p>
<p>(6) 学生の支援に関する目標</p> <p>◎学士課程</p> <p>1 学生の学習実態を把握し、学内関係組織等と連携して多様な学力の学生に対する授業内外での適切な学習支援を行うとともに、主体的・自立的な学習習慣を涵養する。</p>	<p>1-1 保護者、学習支援センター、図書館、共通教育協議会、各学科及び教務委員会、クラス担任等との連携を図り、授業内外での学習が円滑に行えるよう支援を行う。</p>	<p>1-1-1 英語、数学、国語の基礎学力が不足している学生に対して、各科目担当者と連携し、基礎教育の経験者等による学習支援を継続して実施する。</p>	<p>2019年度前期スタートアッププログラムで習熟度テストを行い、成績により3科目(英語、数学、IT適正)の下位グループを抽出、後期には前期成績をもとに多少学生の入替えを行い、補習授業を継続して実施した。</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
<p>◎学生生活への支援</p> <p>1 学生サービス、厚生補導等の支援体制の整備充実、学生支援組織の適切な運営に努め、学生生活環境を整備充実する。</p>	<p>1-2 自習室やグループ学習室でのピアサポートを通じて、授業内容を発展させるために学習支援し、主体的・自立的な発展学習を促す。</p>	<p>【学習支援センター運営委員会】</p> <p>1-2-1 学内外のコンテスト、資格取得支援、ピアサポートルームを中心とする学習チュータ活動等の充実について、引き続き検討する。</p> <p>【経営情報学部先端経営学科】</p> <p>1-2-2 多様な学生が参加できる主体的・自立的な学習の場を継続的に提供するとともに、その成果を総括して必要な改編を行う。</p> <p>【経営情報学部システム情報学科】</p> <p>1-2-3 学科で主催あるいは支援するコンテストについて検討する。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】</p> <p>1-2-4 病院実習など学外での実習経験の公开发表、オープンキャンパスでの学生による説明、健康情報科学についての講演会における学生の参加、学会の学生セッションへの演題発表及び学会参加などを通じてプレゼンテーションの向上を図る。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】</p> <p>1-2-5 学科主催のコンテスト等の充実について検討する。</p>	<p>【学習支援センター運営委員会】</p> <p>学内コンテストは、各学科担当教員から提出された企画書に基づき実施した。資格取得については、MOS対策講座とITパスポート対策講座を従来通り開講した。基本情報技術者試験対策講座は、2年前から受講方法を変えてeラーニング方式とした。ピアサポートルーム及び学習チュータ活動は、時間割を変えて対応した。2020年度学習チュータについては、2019年11月に募集を行い、12月に面談し、1月に選考を行った。</p> <p>【経営情報学部先端経営学科】</p> <p>enPiTや国際コラボレーションなど成績上位層対策は行ってきたが、学生の意見も聞いて後期に学部等連携課程の答申をとりまとめた。</p> <p>【経営情報学部システム情報学科】</p> <p>プログラミングコンテストについて、担当者レベルで支援を行った。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】</p> <p>病院実習など学外での実習経験の公开发表、オープンキャンパスでの学生による説明の実施や、健康情報科学についての講演会への学生参加、地域の食品生産地を訪問する実地学習を行った。学会の学生セッションへの演題発表及び学会参加などを通じてプレゼンテーションの向上や意欲向上を図った。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】</p> <p>今年度より新たに「ゲーム制作コンテスト」を実施した。既存コンテストは、内容の充実を図るため、科目授業内での告知など、周知の工夫をおこなった結果、多くの学生に伝わった。</p>
	<p>1-1 学生の意見等を踏まえながら継続的に学生のニーズを反映したサービスの充実を図る。</p> <p>1-2 学生相談窓口業務のサービスを一層向上させる。</p>	<p>1-1-1 前後期のスタートアップの際に1、2年次の学生を対象として記入してもらっているセルフシートの『Q6.大学への要望』を踏まえ、学生サービスの充実を検討する。</p> <p>【学生SC事務室】</p> <p>1-2-1 2017年度に実施した学生満足度調査結果、その他学生の意見等を踏まえ、学生サービスについて継続し検討する。</p>	<p>結果について個別に吟味し、実現可能な内容がどうかクラス担任と調整した。学生生活環境の整備及び充実を図るため、学生食堂をリニューアル、テニスコートを整備し、eDCタワー2階のカフェテリアをコンビニに改装した。</p> <p>【学生SC事務室】</p> <p>学生満足度調査結果を基に、学生食堂をリニューアル、テニスコートを整備し、eDCタワー2階カフェテリアをコンビニに改装した。</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
	<p>1-3 キャッチコピー(あなたを大切に育てるe環境)を踏まえた取り組みを各学科等、事務局各課・室において実施する。</p>	<p>【教務課】 1-2-2 2017年度に実施した学生満足度調査結果、その他学生の意見等を踏まえ、学生サービスについて継続し検討する。</p> <p>【大学事務局】 1-3-1 2019年度についても、キャッチコピー(あなたを大切に育てる e 環境)を踏まえた取り組みを、各部署単位に継続して実施する。</p> <p>【経営情報学部先端経営学科】 1-3-2 キャッチコピー(あなたを大切に育てるe環境)を踏まえた取り組みを各教員の役割を通して実践するとともに情報共有と他部署連携を強化する。</p> <p>【経営情報学部システム情報学科】 1-3-3 キャッチコピー(あなたを大切に育てるe環境)を踏まえた取り組みを継続して実施する。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】 1-3-4 キャッチコピーに対して各教員が取り組める具体例の検討、特に出席不足、単位不足が予測される者を学科会議など通じて対策を継続して実施する。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】 1-3-5 キャッチコピー「あなたを大切に育てるe環境」を踏まえた取り組みを継続して実施する。</p> <p>【教務課】 1-3-6 キャンパスシステムや教務情報Webシステム、eアシナ等に蓄積されている各種データを活用して、より良い学修につながる情報提供を教員と協働しながら実施する。</p> <p>【教務課】 1-3-7 学生の各種相談について、一人ひとりと向き合い、学生の立場を考えて丁寧な対応を行う。</p>	<p>【教務課】 学生満足度調査の結果を踏まえ、時間割の作成や教室のマイク、プロジェクタ等の設備面、また窓口対応について、学生サービスが向上するような対応、検討を行った。特に2020年度時間割の作成にあたっては、学生にとって履修しやすい時間割となるよう、専任教員の教室等の指定について変更した。</p> <p>【大学事務局】 事務局内の目につくところに、キャッチコピーを掲示して、常に意識して業務に取り組むように心がけた。</p> <p>【経営情報学部先端経営学科】 個々の学生について担任、ゼミ担当を中心に学生サポートセンター事務局、学生相談室、保健センター、国際交流・留学生支援課、就職課、教務課など情報を共有して他部署連携して対応した。</p> <p>【経営情報学部システム情報学科】 キャッチコピーの重要性を日頃から意識すると共に、ノートPC貸与の導入など、学習環境面での改善を図った。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】 出席不足、単位不足が予測される学生や卒業要件を満たさない学生について学科会議で情報共有し、各教員がキャッチコピーを踏まえた取組みを実施した。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】 1、2年の担任、ゼミ担当者を中心に学生第一の姿勢を心がけた。</p> <p>【教務課】 キャンパスシステム等のデータを活用して、教職員ポータルサイトに学生への状況を記録することで、教職員間の情報共有を図った。また、必要に応じてキャンパスシステム等のデータを基に委員会資料等を作成し、より良い学修につながる情報提供を行った。</p> <p>【教務課】 学生からの各種相談について、丁寧な対応を行うように心掛けた。また、学生に心掛けて欲しいルール等については、学生の立場を考えて指導を行うようにした。</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
<p>◎留年・退学者対策</p> <p>1 社会の高度化、複雑化を背景とした学生の多様化に対応して、留年生、中途退学者を減少させ、退学率を10%とする。</p>	<p>1-4 学生満足度調査を定期的実施しその結果を公表し、必要に応じて改善を図る。</p> <p>1-5 食堂、売店、学生宿舎等の福利厚生施設を再点検する。</p> <p>1-1 すべての学生を卒業に導く育成環境を構築し、推進する。(再掲)</p>	<p>1-4-1 (次回の学生満足度調査は2021年度に実施する。)</p> <p>1-5-1 食堂、売店、学生宿舎等の福利厚生施設を再点検する。</p> <p>【退学率改善委員会】</p> <p>1-1-1 学生指導のために必要な情報共有については、教職員ポータルサイトの「学生カルテ」を活用する。</p> <p>【退学率改善委員会】</p> <p>1-1-2 1年生と2年生の連続欠席対応を日々行う。主担当のクラス担任が対応できないときは、相談ルーム内の職員が対応する。毎月TCC(トータルケアコーディネーター)ミーティングを行い、学科会議に情報を提供する。</p> <p>【退学率改善委員会】</p> <p>1-1-3 2019年度も継続し、対応の流れを決めたフローシートで実践する。</p>	<p>結果について個別に吟味し、予算に応じ2019年度に対応できるか否かを調整した。</p> <p>結果について個別に吟味し、予算確保を検討した上で、学生食堂をリニューアル、テニスコートを整備し、eDCタワー2階のカフェテリアをコンビニに改装した。</p> <p>【退学率改善委員会】</p> <p>学生指導するための情報共有について、2019年度から教職員ポータルサイト(学生指導支援・就職活動支援)の学生カルテに変更した。</p> <p>【退学率改善委員会】</p> <p>1年生と2年生の連続欠席対応を日々行った。主担当はクラス担当教員が対応した。</p> <p>TCC(トータルケアコーディネーター)のミーティングを月1回行い、欠席状況等について各学科へ情報提供を行った。</p> <p>【退学率改善委員会】</p> <p>対応の流れを決めたフローチャートで実践した。</p>
<p>◎卒業後の進路、就職支援</p> <p>1 学生の職業意識を高めるとともに、資格取得支援教育を拡充するなど、学生の就職活動を多面的に支援する。就職支援に関する体制、指導内容等について必要な見直しを行い、学生の意識・意見等も踏まえながら就職支援と進路指導の適切な実施に努め、就職委員会と学部、学科、関係委員会、各教員等との連携による就職指導体制の充実</p>	<p>1-1 各学科、学生サポートセンター事務室を始めとする関係部署との連携、情報共有を図ることにより教員の就職に対する意識の向上を図る。</p> <p>・IoTを活用した学生・教員・学生サポートセンター事務室の連絡網確立による就活支援を図る。</p>	<p>1-1-1 各学科教員等との連携による就職指導の在り方、並びに指導の内容、及び指導方法等の充実について、引き続き検討する。</p> <p>また、就職活動支援におけるIoTの活用については、他の委員会や全学の動きに合わせて検討する。</p>	<p>各学科教員との連携による就職指導の在り方について、就職委員会で検討を行った。就職情報の共有に関しても、各学科のゼミ教員へのメール連絡や学部教授会等において、学生の就職状況や就職指導の内容等について報告し、学内における就職支援に対する教員の意識向上に努めた。</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
<p>◎健康増進</p> <p>1 学生の健康の保持、学生相談等に関する体制整備を図るとともに、保健センター及び学生相談室の業務の充実に努める。また、保健センター及び学生相談室における健康、悩み、その他学生のあらゆる生活上の問題に関し効果的な支援を行う。</p> <p>◎課外活動、自主的活動への支援</p> <p>1 課外活動、その他の厚生事業等を適正に運営するとともに、学生の自主的活動等を支援する。</p> <p>◎経済的支援</p> <p>1 経済的に困難な学生を支援し、経済困難から退学や除籍になる学生への支援対策を推進する。</p> <p>◎留学生</p> <p>1 留学生の受入れ体制から教育支援まで全学的なサポート体制を作り、学内外での異文化交流を充実させる。</p>	<p>1-1 保健センター及び学生相談室の運営体制等の見直しを行い、各種の問題に対し学内外の関係組織等との連携を図りつつ、遅滞なく適切に対処するための体制を整備する。</p> <p>1-1 学生の課外活動、奨学金、その他の厚生事業等の適正運営について検討する。</p> <p>1-1 経済的困難による退学や除籍になる学生への支援対策を検討する。</p> <p>1-1 住環境整備、関連職員・カウンセラー等の充足、経済支援制度の強化、就職支援の充実等、留学生の支援制度を拡充する。</p>	<p>【医療情報学部医療情報学科】</p> <p>1-6-3 地域に密着した学生参加による健康チェックステーションの活用、生命維持装置のしくみ・操作法、札幌駅地下歩道における健康情報の発信、地域のイベント参加、オープンキャンパスや学校祭における学科の内容説明などを通じて学生が市民の健康に寄与する仕組みを構築する。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】</p> <p>1-6-4 学科主催の課外活動の支援について検討する。</p> <p>【保健センター】</p> <p>1-1-1 学生相談室との継続的な連携を強化し、学生の健康維持及び増進のための健康情報発信を行う。また、肥満、血圧高値、睡眠に問題のある学生の現状を把握し生活指導を中心とした個別の指導を行う。</p> <p>1-1-1 学生の課外活動その他の厚生事業等について、学生の意見・要望等を踏まえ、継続して自主的な課外活動の支援方策等について検討する。</p> <p>1-1-1 経済的理由によりやむを得ず退学・除籍となる学生への支援対策について、FD委員会での検討結果等を踏まえ、奨学金その他の支援方策等について検討する。</p> <p>1-1-1 留学生の受入れから教育支援、生活支援において、全学的なサポートを継続する。</p> <p>1-1-2 留学生の日常生活相談としては、引き続き国際交流・留学生支援課で常時応じる。</p>	<p>【医療情報学部医療情報学科】</p> <p>地域に密着した学生参加による健康チェックステーションの活用、生命維持装置のしくみ・操作法、救急救命処置の学外指導、札幌駅地下歩道における健康情報の発信、地域のイベント参加、オープンキャンパスや学校祭における学科の内容説明などを通じて学生が市民の健康に寄与できるよう支援を行った。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】</p> <p>北海道情報大学教育研究振興基金を活用し、学生派遣の原資を確保し、一名の学生をenPiT・Security(仙台)に派遣した。</p> <p>【保健センター】</p> <p>学生相談室と継続的な連携をとり、学生の健康維持及び健康増進のための健康情報発信を実施した。また、肥満、血圧高値、睡眠に問題のある学生の現状を把握し生活指導を中心とした個別の指導を実施した。</p> <p>学生の課外活動その他厚生事業について、学生の意見・要望等を聞き取り内容について、今後も検討していくこととした。</p> <p>2019年度も継続し教育研究振興事業(寄付金)を使用し、やむを得ず授業料が支払えない(1年以内に起きた事象)学生については、個別面談し、給付するなどの対策を行った。</p> <p>「第10回外国人学生の日本語弁論大会」を7月27日に行った。また、日帰りバスハイク研修を12月14日に実施した。</p> <p>留学生の日常生活の相談は、都度受けて対応に当たった。また、授業の欠席が続いたり体調不良の際は、国際交流・留学生支援課職員が常時対応し、担当教員との相談に応じた。</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
	<p>1-2 留学生の日本語力や授業受講能力向上を図るとともに、授業における留学生補助等も検討する。</p>	<p>1-1-3 経済支援としては、授業料の減免を行う。また、奨学金については日本学生支援機構の制度や本学独自の制度を活用する。</p> <p>1-1-4 就職支援としては、本学の学生サポートセンター事務室、江別市や札幌市の商工会議所等と協力して行う。</p> <p>1-2-1 新入学の留学生を対象とした受入れ直後の新学期前の期間において、日本語特別講座を実施する。</p> <p>1-2-2 在籍している外国人留学生を対象にして、日本語能力試験JLPT2級の受験対策講座を実施する。</p> <p>1-2-3 授業における補助は、学習支援センターと協力して、留学生チュータを検討する。</p> <p>1-2-4 留学生の日本語能力向上や異文化交流を目的として、地元、地域も含め、学内外での様々な行事に積極的に参加させる。</p>	<p>2019年4月に、協定校留学生の授業料減免申請を行い、一般私費外国人留学生は、9月に申請を行った。</p> <p>奨学金については、5月に日本学生支援機構(JASSO)の学習奨励費を1名申請した。また、本学独自の奨学金制度については、9月申請として1名の申請手続きを行った。</p> <p>学生サポートセンター事務室の就職課が主として就職相談を受けており、国際交流・留学生支援課では就職課と連携しながら留学生の支援を行った。また、江別や札幌の商工会議所主催のプログラムや、民間の就職セミナーを随時紹介し受講を薦めた。</p> <p>聴講生を対象とした日本語の特別講座を、毎週木曜日、金曜日に実施した。</p> <p>通常の日本語授業に加えて日本語能力試験のN2対策講座を、前期は毎週金曜日に実施し、後期は毎週木曜日の課外時間帯（5時限）に国際交流・留学生支援課の職員が実施した。</p> <p>留学生チュータの任命を行い留学生の支援を考えていたが、実現できなかった。2020年度は留学生の学習支援とともに、日本語能力向上に向けて実現させたい。</p> <p>7月27日に「第10回外国人学生の日本語弁論大会」を実施した。全9名が発表を行い、最優秀賞1名、優秀賞1名、努力賞2名、合計4名が受賞し、8月2日に表彰式を行った。</p> <p>10月6日には江別市観光課企画の「江別市内バスツアー」が行われ、本学の留学生2名が参加した。</p> <p>10月14日には江別市国際交流推進協議会主催の「江別世界市民の集い」にも本学の留学生3名と支援課職員2名が参加した。</p> <p>さらに、11月16日には江別日中友好の会が主催する「日中文化サロン」では、本学の留学生8名が参加し地域市民との交流を深めた。</p>
<p>◎ 大学院 1 生活支援・就職活動等の支援の充実、キャンパス生活向上のため、柔軟かつ適切に対処する。</p>	<p>1-1 大学院生の健康・メンタルヘルス相談制度、経済支援に関する方策を点検するとともに、大学院生の就職活動への相談体制を充実させるため企業が求める人材の調査研究を推進する。</p>	<p>1-1-1 大学院生への経済的支援について検討する。</p>	<p>各種奨学金の紹介を行い、必要な措置を講じた。</p>
(7) 教育環境に関する目標			

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
1 教育施設・設備を拡充するとともに、それらを効率的に運用し、教育環境の向上を図る。	1-1 施設・設備の優先順位を明らかにするキャンパス・マスタープランを作成し、教室の大きさや音響、レイアウト、また講義で使用するソフトや機器の数・配置等が講義の性格及び受講生の数からみて適切であるかを検討する。学部・学科別の校舎・フロアへの再編を行い、空調設備の整備、図書館の充実を図り、24時間利用可能なキャンパスを目指す。	1-1-1 第Ⅱ期保全計画(2016年度～2020年度)のうち、2019年度保全工事を実施する。工事優先度等の詳細項目については、保全計画実施前に、大学、法人合同の年度別保全計画実施項目調整会議を行い、柔軟な施設整備を実施する。	・保全工事実施前に大学・法人合同で2019年度保全工事実施項目調整会議を行い、保全工事項目の調整、決定を行った。 ・上記、会議結果を踏まえ、7月より保全工事に着手し、9月末に完了した。
2 本学の学部・学科の特色を生かした教育環境を整備する。	2-1 メディアクリエイティブセンター(MCC)を中心にゼミナール、プロジェクト学習での利用に相応しい施設・設備の整備を定期的実施する。	【経営情報学部先端経営学科】 2-1-1 ゼミナール、プロジェクト学習での利用に相応しい施設・設備の整備を定期的点検し、必要に応じて見直す。 【経営情報学部システム情報学科】 2-1-2 ゼミナール、プロジェクトなどの学習に相応しい施設・設備の整備を定期的点検し、必要に応じて見直す。 【医療情報学部医療情報学科】 2-1-3 健康情報科学センター、先端医療・健康情報教育センターの利用、患者の外来受付から、カルテ作製、診察、医療費清算等、病院窓口業務の模擬授業の実施、電子カルテの操作実技、臨床工学機器を通じて学生の実験、機器の理解、学習を実施する。 【情報メディア学部情報メディア学科】 2-1-4 ゼミナール、プロジェクト学習での利用に相応しい施設の設置と設備の整備を引き続き行う。	【経営情報学部先端経営学科】 学生貸与のiPadをタブレットPCに変更して実習室やゼミ室以外での成果物作成環境を整えた。 【経営情報学部システム情報学科】 学生へノートPC貸与する取り組みを行った。このことは、ゼミナール・プロジェクトなどの学習環境改善につながると期待される。なお、ゼミ室プロジェクトの視認性不足を、改善すべき課題の1つとして認識した。 【医療情報学部医療情報学科】 健康情報科学センター、先端医療・健康情報教育センターの利用、患者の外来受付から、カルテ作製、診察、医療費清算等、病院窓口業務の模擬授業の実施、電子カルテの操作実技、臨床工学機器を通じた学生実習、機器の理解、学習を実施した。電子カルテ、医療事務電算システムは教育環境としては旧式であることから、設備機器類を刷新する方向に努めた。 【情報メディア学部情報メディア学科】 MCCを含む、教育・学生生活動環境の施設・設備について見直し、次世代教育のためにG・スタジオを設置した。
3 情報センターの機能を充実させる。	3-1 仮想サーバ・クラウド等の技術の利用可能性についての検討を行い、資源の有効活用を図る。	3-1-1 2019年度に更新するサーバーに仮想化技術を適用し、効果の検証を行う。他のサーバーへの適用可能性について検討する。図書館システムの更新時にクラウド化を検討する。上記に加えて 情報センターの機能充実の一部として ・公開サーバのセキュリティ対策向上の取り組みについて検討する。 ・学内システム間連携強化のために、手続き等の見直し、情報共有の場の創出等を検討する。 ・情報センターの果たすべき機能について検討する。	・新図書館システムとしてクラウドサービスを利用することとなり、導入作業を行い9月より新システムでサービスを開始した。 ・2019年度より情報センターにホームページ管理部門が新設されたことにより、ホームページ管理規程案の検討を行い、2020年度より施行することとした。また、引き続き情報センターの機能充実をはかるために必要な事項について検討を行った。 ・外部クラウドサービス(Google Suites及びMS Office365)利用時のセキュリティ強化について検討し、多要素認証を導入した。
4 大学院の特色を生かした教育環境を整備する。	4-1 大学院における教育環境の更なる向上を検討する。	4-1-1 教育環境について調査し、必要な対策を検討する。	教育環境について調査し、学生貸与パソコンを更新するなど必要な対策を講じた。

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
<p>5 カリキュラム、シラバスと密接に連動し、学生の利用動向を把握し、学生、教職員のニーズに応えた図書館サービスを提供する。</p>	<p>5-1 学生の利用動向を把握し学生のニーズを反映した図書を整備するとともに、学生、教職員への文献サービスの体系的な整備充実を図る。</p>	<p>5-1-1 学習支援の観点から、学生の自学学習のための環境整備を推進する。 学生目線に立ち、学生のニーズに合った図書の整備・充実を図れるような選書体制を構築する。</p> <p>5-1-2 本学のカリキュラム・シラバスと連動した資料の収集を行い、本学の特徴を生かした蔵書構成を図る。</p>	<p>図書館備え付けPCが実習室と同じ機能を持つことを周知するなど図書館は学習支援の一翼を担っている。 学生のニーズを反映した選書体制を構築するための方策として学生によるWeb選書を企画し実施した。</p> <p>シラバスから参考図書を抜粋し別置するとともに図書委員を中心に学科構成に基づいた資料収集を行い本学の特徴を生かした蔵書構成を図った。</p>
<p>6 教育研究施設の整備充実を図るとともに、各センターにおける活動を推進する。</p>	<p>6-1 eラーニング推進センター、先端医療・健康情報教育センター、メディアクリエイティブセンター、健康情報科学研究センター、宇宙情報センター、地域連携・産学連携センター、アントレプレナーシップセンターを整備するとともに、各センターによる教育研究活動を推進する。</p>	<p>6-1-1 引き続き、各センターの活動状況、成果等について教育研究評議会で確認し、必要に応じて改善を図るとともに、運営費を支援をしていく。</p> <p>【eラーニング推進センター】 6-1-2 POLITEやiPad等を利用したmラーニングによる「主体的な学びへ導くためのICT環境構築モデル」の機能改善や拡充を図る。</p> <p>【eラーニング推進センター】 6-1-3 教育の質を高めるためのPDCAサイクルをより一層加速するため、CANVASの機能や情報共有の在り方を検討し、改善を図る。</p> <p>【eラーニング推進センター】 6-1-4 POLITEのベースをMoodleの最新バージョンへ移行することを検討する。また、CANVAS、POLITEの脱flash化に取り組む。</p>	<p>【教育研究評議会】 2016年10月から始めた教育研究評議会での各センターの活動状況等の報告を継続して実施した。今後も継続するとともに、必要に応じて運営費等の支援を検討することとした。</p> <p>【eラーニング推進センター】 ・先輩の職場見学に、病院職員、専門学校教員、大学職員の3名を追加した。 ・教員の専門分野探索に、2018年後期赴任の2名と2019年度赴任の3名を追加した。 ・2020年度に学生に貸与するタブレット端末を検討した（主としてICT活用による教育イノベーション小委員会で検討）結果、タブレットPCを全学科に貸与することにした。</p> <p>【eラーニング推進センター】 実情に合わせてCANVASの機能の見直しを行い、併せて利便性を考慮した改修を実施した（ICT活用による教育イノベーション小委員会と共同）。2020年度から新しいシステムで運用を開始する。</p> <p>【eラーニング推進センター】 ・サーバー環境の整備を行った。 ・新POLITEの機能概要の説明会を9月に実施した。 ・新POLITEの使い方等に関する説明会を3月に実施した。 ・CANVAS、POLITEの脱flash化に取り組んだ。</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
		<p>【先端医療・健康情報教育センター】 6-1-5 ・オープンキャンパス参加者やその保護者に対して、AEDなどの医療機器を実際に使用した体験学習を行う。また、高校生に対して臨床工学実習室で体験講座を行う。 ・学生とともにマラソン大会などのボランティアとして参加し、本学の魅力をアピールする。 ・細胞培養実験では、Huh7及びその耐性株の酵素変化などの違いを比較検討する。</p> <p>【メディアクリエイティブセンター】 6-1-6 地域連携やコンテストへの応募などのプロジェクト活動を推進し、学生の主体的な活動を継続して促していく。</p> <p>【健康情報科学研究センター】 6-1-7 食の臨床試験については、毎年10件程度を実施しているが、2019年度については例年通り10件を計画している。実施にあたり、臨床試験システムの安全性の確保に重点的に取り組み、地域から信頼される健康啓蒙活動として発展させる。また、戦略的イノベーション創造プログラムの事業との強化に努め、国の取組みと連動させ発展を図る。グローバル展開については、学術分野から食品産業まで含めた国際交流に積極的に取り組む。</p> <p>【宇宙情報センター】 6-1-8 宇宙情報に関するイベント・講演会・出前授業を実施する。人工衛星・探査機データサーバにデータを蓄積し講義や実習で活用する。人工知能を用いた人工衛星データ処理プログラムを講義や実習で利用する。</p>	<p>【先端医療・健康情報教育センター】 1) 学生参加による活動を行った。 ・第2回北海道体外循環セミナー参加 (18名) ・新さっぽろロハスマラニックボランティア (14名) ・学外医療実習 (18名) ・第11回北海道手術医学研究会 (18名) ・北海道マラソン2019 ボランティア (14名) ・千歳サーモンマラニック2019ボランティア (3名) ・北海道臨床工学会参加 (22名) 2) 細胞培養実験 ゼミ学生とともにHuh-7培養細胞 (原発性肝臓癌培養細胞) を用いて以下の実験を行った。 ・培養液 (RPMI1640とDMEM) の違いによる増殖能の検討 ・薬剤によるストレス下での増殖能の検討 (2種類) ・培養容器に違いによる固着細胞と浮遊細胞の違いの検討。</p> <p>【メディアクリエイティブセンター】 地域連携として、江別市大学連携調査研究事業として外部資金を獲得した。また、年間で48の学生プロジェクトを支援し、学生の主体的な活動を促した。</p> <p>【健康情報科学研究センター】 食の臨床試験については、継続試験も含め既に11件について計画通り終了している。また、情報技術を取り入れた臨床試験システムの安全性の確保と質の向上に重点的に取り組み、サーバ、通信システムの見直しによりセキュリティレベルを上げるなど基盤を強化した。住民の健康増進のイベント等にも江別市と協力し2回開催した。一方、戦略的イノベーション創造プログラムについても観察研究、介入試験も予定通り終了した。グローバル展開については、ドイツ食品企業DSMと連携し、ビタミン摂取による健康増進の取組についてフォーラムを開催するなど積極的に取り組んだ。</p> <p>【宇宙情報センター】 6月にえべつ環境広場で3テーマを実施した。人工衛星・探査機データサーバを講義、オープンキャンパス、出前授業で利用した。AIを用いた人工衛星データ処理を講義や実習で実施した。</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
		<p>【地域連携・産学連携センター】</p> <p>6-1-9 研究・教育、生涯学習、産学官連携の各部門ごとに地域ニーズを把握し、本学との連携により具体化できる事業計画を策定する。計画の実現に向けて適切に予算配分し、その成果を将来の教育研究活動に生かす。</p> <p>【アントレプレナーシップセンター】</p> <p>6-1-10 センター設備の充実を図る。とくに、アイデアソンやハッカソンで頻りに利用する備品及び消耗品の補充・整備に注力する。Facebookページとセンターホームページの使い分けについて再検討し、場合によってはセンターのホームページのリニューアルまたは廃止を行う。</p>	<p>【地域連携・産学連携センター】</p> <p>各部門の事業計画に従って、教育・研究活動を進めた。計画書の内容を公正に審査し予算を配分し、教育研究活動を支援した。</p> <p>【アントレプレナーシップセンター】</p> <p>センターの設備を用いて、機械学習やそのためのプログラミング技術講習会を行った。その活動に必要な書籍や設備の導入を検討したが2019年度は参加学生からの要望もなく、導入せず。アイデア出しに必要なものとして、縦長のホワイトボードを複数台所有しているが、その利用が多かった。また、国際コラボレーションなど、他のイベントにも貸し出しを行った。これについても追加するべきかどうか検討したものの、現状の参加者を鑑み、追加を見送った。</p>
II 教育に関する目標			
II-2 通信教育部の教育に関する目標			
(1) 通信教育部の方針に関する目標			
1 通信教育の社会的ニーズを踏まえ、通学課程と連携しながら、通信教育課程の改革を進める。	1-1 通信教育のニーズや大学通信教育政策等の動向を調査する。	1-1-1 私立大学通信教育協会等を通じて大学通信教育政策等の動向を調査する。	通信教育協会主催の「高等教育の修学支援新制度に関する情報意見交換会」及び「政策検討委員会」に参加し、「高等教育の修学支援新制度」、「授業目的公衆送信補償金」、「全国学生調査(試行実施)」などについて情報収集を行った。
	1-2 通信教育課程の改革を進める。	1-2-1 引き続きカリキュラム改正と教育体制整備を進め、2020年度からの新カリキュラムの実施に備える。	通学課程のカリキュラム改正を取り込んだ通信教育部カリキュラムの検討を行った。 2020年度、委員会等で検討する予定である。
(2) 学生の受入れに関する目標			
1 多様なニーズに応じて、幅広く学生を受け入れる。	1-1 通信教育のニーズを踏まえ、社会人及び生涯学習を目指す人々に受け入れられやすい制度やプログラムを企画する。	1-1-1 社会人及び生涯学習を目指す人々がどのような制度やプログラムを希望しているか調査する。	授業評価アンケートに併せて行う「通信教育部全般に関するアンケート」の結果を分析し、教育に関するリクエストとしてPythonなどの新しいプログラム言語やインターネットメディア授業拡充の希望などを把握した。これらについては今後実施の検討を行う。
(3) 教育の成果に関する目標			
1 高度情報通信社会にふさわしい情報技術と知識及びそれを支える幅広い教養と各種専門分野にまたがる知識を習得した人材を輩出する。	1-1 通信教育の特性を加味した評価方式を検討し、それに基づいた評価を行う。	1-1-1 インターネット試験の拡充を進める。また、本人認証の方法についての調査・検討を行う。	個人認証システムの調査及び検証作業をMEC(メディア教育センター)と共同で行い、プロトタイプ作成を行った。 2020年度、実運用に向けた環境整備を行う。
(4) 教育の内容・方法等に関する目標			

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
1「情報」を核として、社会が求める人材に適した教育カリキュラムを提供する。	1-1 社会的ニーズや今後の成長が見込まれる分野を検討し、カリキュラムや履修モデルコースの見直しを行う。	1-1-1 引き続きカリキュラム小委員会で、カリキュラムの検討を行う。	通学課程のカリキュラム改正を取り込んだ通信教育部カリキュラムの検討を行った。 2020年度、委員会等で検討する予定である。
2 ICTを活用して、教育サービスを向上させる。	2-1 ICTの利活用について総合的に検討し、実施計画を策定し、実行する。	2-1-1 ICTによるサービスやシステムについて、アンケートなどにより使い勝手などの検証を行い、改善を図る。	授業評価アンケートに併せて行う「通信教育部全般に関するアンケート」の結果を分析し、ポータルサイト「無限大キャンパス」について、手続きがわかりづらい、必要な情報が見つけにくいなどの指摘があり、2020年度、システムの修正を行う予定である。
(5) 教育の環境と支援に関する目標			
1 教育センターや通学課程との連携を図り、通信教育を円滑に実施する体制を構築する。	1-1 教育センターや通学課程との情報共有を密に行うとともに、協働しながら教育を実施する。	1-1-1 通学課程とのeラーニング教材の共同開発等の検討を行う。	通学課程との共通科目について、2科目のeラーニング教材開発に着手した。 2020年度中に開発を完了し、2021年度から運用を開始する予定である。
		1-1-2 学生委員会や学生サポートセンター事務室と連携し、円滑な運用を目指す。	転籍制度や奨学生採用など、必要に応じ、学生サポートセンター事務室と連携して対応した。 また、教務委員会、教職課程委員会及び教務課と連携し、通学課程学生への通信教育課程授業科目の提供を実施した。
		1-1-3 教育センターとの学習情報・学生情報の共有の仕組みについて、教育センターと随時協議し、機能の向上を図る。	学習ポータル「無限大キャンパス」で共有の仕組みを構築した。また、Web上に設けている意見収集欄や教育責任者協議会で教育センターとの意見交換を行い、必要な改修を行った。
2 通信教育の質の向上を図るとともに、教育設備等の充実を目指す。	2-1 通信教育担当の人員や制度、教育設備等の充実計画をし、実行する。	2-1-1 引き続きカリキュラム改正の検討過程で、担当教員の確保、教育制度や必要な設備についての検討を行う。	カリキュラムの検討中であり、担当教員、教育制度及び設備については2020年度検討する予定である。
		2-1-2 引き続きレポート添削等の通信教育に必要な教育スキルの向上に関する検討を行う。	2019年度は具体的な検討が行えなかった。 今後はWeb上でのレポート添削等の機会が増えてくるため、事例収集を行う予定である。
3 学習支援体制と相談窓口を充実させる。	3-1 学習支援の仕組みを充実させるとともに、担当する教職員の支援に関するスキルアップを図る。	3-1-1 ICTを利用した学習支援の仕組みについて、さらに充実を図るための調査・検討を行う。	授業評価アンケートに併せて行う「通信教育部全般に関するアンケート」の結果を分析し、ポータルサイト「無限大キャンパス」について、手続きがわかりづらい、必要な情報が見つけにくいなどの指摘があり、2020年度、システムの修正を行う予定である。
		3-1-2 電話対応や職場内での対応について、良い例悪例などのわかりやすい情報を収集して共有化を図る。	窓口・電話対応スキルアップに関し、事務部職員に対する情報提供をメールで行った。

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
4 学生の利便性の向上と、各種制度の充実を図る。	4-1 手続きのICT化を進めるとともに、学生を第一に考えた制度になるよう常に見直しを図る。	4-1-1 学費納入について、ATMやネットバンキングの利用について具体化していく。	ATMやネットバンキングを利用するための情報提供をポータルサイトのマニフェストページ内で行うこととし、2020年度、システム開発を行う予定である。
5 教育環境改善のための調査を行い、通信教育の改善に役立てる。	5-1 学生の意見を集め、それらを反映させる仕組みや体制を整える。	5-1-1 通信教育部全般に関するアンケートを定期的に実施し、分析を行う。	前後期の科目試験時に、授業評価アンケートに併せて「通信教育部全般に関するアンケート」を実施し、その結果を通信教育委員会に報告し、ポータルサイトの改善などを行った。

Ⅲ 研究及び社会連携に関する目標

(1) 研究及び社会連携に関する目標

1 教員の研究活動の活性化のために支援体制を整え、研究水準の向上を図る。	<p>1-1 研究活動を適正に評価し、その結果を研究活動の質の向上に結びつける体制を確立する。</p> <p>1-2 大学が重点的に取り組む分野では教育と知識と情報、食と健康と情報、宇宙と環境と情報の3分野における独自の・先進的な研究を戦略的に推進し、研究水準の向上を図る。</p>	<p>1-1-1 2018年度に実施した評価システムの運用状況を点検し、研究活動が適正に評価され、研究活動の推進や質の向上に結びついている体制になっているか、その実態を検証するとともに、必要に応じて見直し、改善を図る。</p> <p>【教育研究戦略委員会】 1-2-1 重点分野の研究の高度化を図るため、引き続き研究費の支援、国際会議・講演会等の開催支援や海外からの研究者の受け入れを進めていく。</p> <p>【eラーニング推進センター】 1-2-2 ・ICTによる教育イノベーションを推進する。 ・CANVASは、UNESCOのICT Competency Framework for Teachers等を参考に、ICTを使った効果的な授業をするために求められる教員のコンピテンシーに関する研究を進める。</p>	<p>2018年度に実施した教員研究費の基礎資料となる教員活動調査の点検、検証を実施し、一律支給額を40%、調整額を60%とした。また、調整額原資の50%を教員活動調査得点により按分し、50%を査定加算額原資とした。今後は教員活動調査の調査項目や配点基準の見直しなど、研究活動の推進や向上に繋がるよう進めていくこととした。</p> <p>【教育研究戦略委員会】 「食と健康と情報」の研究をより深く推し進めるため、研究者3名(内1名は国外研究者)を客員研究員や客員講師として招聘した。</p> <p>【eラーニング推進センター】 ・コンピテンシー達成度の評価方法を2019年度に対応するように見直した。 ・UNESCOのICT Competency Framework for TeachersのVersion3が公開されたので、Version3の調査を開始した。</p>
--------------------------------------	---	--	---

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
	<p>1-3 教員の研究活動の維持向上のため、リサーチアドバイザー制度を積極的に活用する。</p> <p>1-4 積極的に各種学会、講演会を招致する。</p> <p>1-5 研究グループに研究プロジェクトの立案・実施を促し、プロジェクト研究を推進する。</p> <p>1-6 若手研究者の参画する研究を積極的に推進する。</p> <p>1-7 国内外への中長期研修制度(サバティカル)の導入を図り、国際会議参加への旅費等の支援体制を整える。</p>	<p>【健康情報科学研究センター】</p> <p>1-2-3 ・食の臨床試験やeヘルスチェックステーションから取得できる健康情報を活用した健康アプリ開発の社会実装、特に健康経営に活用できるよう努める。</p> <p>・戦略的イノベーション創造プログラムの事業と連携し、食生活と遺伝子背景、腸内細菌叢に関する情報を基盤にした国際コンソーシアムの構築に継続して取り組む。</p> <p>・住民健康を主眼に、地域に根差した「食と健康と情報」をテーマにした活動に努め、特にヘルスリテラシー教育に注力する。</p> <p>【宇宙情報センター】</p> <p>1-2-4 産学官連携による「宇宙情報活用システム」を構築し実証試験を実施する。</p> <p>1-3-1 2018年度に実施した取り組みを継続し、科研費の積極的な申請を促すとともに、リサーチアドバイザー制度の更なる活用策を検討し、研究活動の向上を図る。</p> <p>1-4-1 学会、講演会の招致及び開催のための支援を継続して実施する。</p> <p>1-5-1 競争的資金等の獲得のための積極的な取り組みや学内における学部・学科間の交流を促進し、連携や共同研究を推進するとともに、プロジェクト研究の充実を図る。</p> <p>1-6-1 若手研究者の研究推進のための研究費支援、研究交流の場の設定、共同研究の推進などの具体的方策を継続して検討するとともに、科研費など外部資金獲得のための取り組みを促し、研究活動の向上に繋げる。</p> <p>1-7-1 引き続き、現行の国内外研修制度について検証し、必要に応じて見直しを進め実施する。</p>	<p>【健康情報科学研究センター】</p> <p>・食の臨床試験やeヘルスチェックステーションから取得できる健康情報を活用した健康アプリ開発の社会実装、特に健康経営に活用できる情報プラットフォームを作成し、学内に設置した。2020年度から運用を開始する。</p> <p>・戦略的イノベーション創造プログラムの事業と連携し、食生活と遺伝子背景、腸内細菌叢に関する情報の基盤を構築した。国際コンソーシアムの構築については、新型コロナウイルスの感染拡大により一時活動を停止しているが、終息しだい再開する。</p> <p>・住民健康を主眼に、地域に根差した「食と健康と情報」をテーマに活動し、グローバルヘルスリテラシー（8月開催）教育に取り組んだ。また、10月には、江別市健康フェスタにあわせ、食と健康に関するフォーラムを開催した。</p> <p>【宇宙情報センター】</p> <p>産学官連携による「宇宙情報活用システム」を構築し実証試験を実施した。データ取得を継続し、膨大なデータがサーバに蓄積された。</p> <p>リサーチアドバイザーによる科学研究費助成事業応募に関する勉強会及び申請書のチェックを継続して実施し、積極的な活用推進を図った。</p> <p>各種学会、講演会では、積極的に本学会場を開放し、開催の支援を行った。</p> <p>学内共同研究取扱規程に基づき申請を促し、学内共同研究の推進を図った。また、学内の研究プロジェクトとして採択された私立大学研究ブランディング事業においても、さらなる学部・学科間の交流を促進し、研究アプローチの位置付けとして、学内研究の活性化並びにブランディング化を図るため、予算化を図り学内公募した。</p> <p>当面は、科学研究費助成事業の申請及び採択件数の向上に向けて取り組んでいくこととしたが、新規採用者の「研究活動スタート支援」の該当者はいなかった。今後も引き続き、リサーチアドバイザーのバックアップの下、科学研究費助成事業を中心に若手研究者の外部資金獲得のための取り組みを促し、研究活動の向上に繋げることとした。</p> <p>現行制度の検証を行いながら、改善等の必要があれば、見直しの検討を進めることとした。</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
2 研究の学内環境の整備・改善を図る。	<p>1-8 科研費に関する講習会等を実施し、科学研究費補助金の申請を促し、採択件数向上を図る。</p> <p>1-9 学術研究助成金の申請件数の向上を図る。</p> <p>2-1 電子ジャーナル及び学術情報データベースの整備・充実と、ネットワークを介した各種図書館サービスの充実を図る。</p> <p>2-2 研究活動の促進に向けた研究環境・施設を整備するとともに、重点分野を始め研究の活性化に必要な設備を導入する。</p>	<p>1-8-1 2018年度に実施した取り組みを継続するとともに、当面は、若手研究者を中心に申請件数の増加を目指す取り組みを進める。</p> <p>1-9-1 研究助成金等の募集情報について、常に閲覧可能となるような仕組みを構築するとともに、科研費の応募に関する勉強会等への参加者拡大を図り、リサーチアドバイザー制度の周知をより一層徹底しながら申請件数の増加に取り組む。特に、若手研究者の積極的な申請を目指す。</p> <p>2-1-1 本学の学科構成に相応しい電子ジャーナルやデータベースの整備とともに効果的利用の方策について検討する。</p> <p>2-1-2 ネットワークを介して図書館システムと連動するサービスの運用を検討する。</p> <p>2-2-1 研究活動の推進と支援策を継続して検討するとともに、必要に応じて研究の活性化に必要な設備の導入を支援するための方策や支援体制の整備を図る。</p>	<p>応募に関する勉強会(2019年9月12日開催)や申請書のチェックを実施するなど、リサーチアドバイザーの活用推進を図って、申請及び採択件数の向上を推し進めた。</p> <p>研究助成金等の募集情報を蓄積した閲覧可能なサイトは、構築に向け作業を進めていたが、メンテナンス等の対応も考慮した結果、現在行っているE-mailによる通知を引き続き行うこととした。</p> <p>また、応募に関する勉強会(2019年9月12日開催)や申請書のチェックを実施するなど、リサーチアドバイザーの活用推進を図って、申請及び採択件数の向上を推し進めた。</p> <p>利用者が使いやすいように、電子ジャーナルのアクセス方法をID/PWからサイトライセンスに変更した。</p> <p>本学の特徴に合わせ図書館新システムが持つ機能をネットワークを介して運用した。</p> <p>私立大学研究ブランディング事業における研究アプローチの位置づけとして、学内研究の活性化並びにブランディング化を図るため、予算化を図り学内公募した。今後も必要に応じて研究の活性化に必要な設備の導入を支援するための方策や支援体制の整備も進めることとした。</p>
<p>(2) 地域貢献・産学連携に関する目標</p> <p>1 教育研究成果を広く社会に還元し、企業・地域社会等と幅広く連携する取り組みを拡大する。</p>	<p>1-1 産業界、官公庁、金融界との包括的連携を発展させ、人的交流を促進し、大学・地域双方の活性化を進める。</p> <p>1-2 各種公開講座、研究会、教員免許の更新時講習を開催するとともに、企業・行政との連携を強め、教育・研究の成果を社会に広く還元する。</p>	<p>1-1-1 学生地域定着推進広域連携協議会等の活動を通じて、引き続き、学外との人的交流や大学・地域双方の活性化を図る。</p> <p>1-2-1 本学の有する教育研究成果のシーズを継続的に発信し、各種公開講座や研究会を通じて、広く社会に還元する。</p>	<p>学生地域定着推進広域連携協議会などと連携し、本学の学生および教員は学外との人的交流を進め、大学・地域双方の活性化を進めている。2019年度には、新たな取り組みとして江別青年会議所と協働でまちづくりフォーラムを開催した。</p> <p>2019年8月5日に江別市内4大学(札幌学院大学、北翔大学・北翔大学短期大学部、酪農学園大学、本学)と江別市、江別商工会議所は、産学官連携・協働による地域貢献と高等教育の活性化を目的とした「えべつ未来づくりプラットフォーム連携協定」を締結した。今後、この目的を達成するため、協定書で掲げた連携協働事項及びプラットフォームで策定する中長期計画の内容を踏まえ、実践していく。</p> <p>2015年度から2018年度の教育・研究助成の教育研究の成果を取りまとめ、シーズとして情報を発信する準備を進めている。また、年間計画に基づき本学教員の専門分野に関する公開講座やイベントなどを企画し実施した。2019年度は、江別蔦屋書店と新たな取り組みとして「なるほどラボ」を実施した。</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
	<p>1-3 本学の教育研究等の諸活動に関する情報を積極的に社会へ発信する。</p> <p>1-4 各種審議会・研究会等へ積極的に参画する。</p>	<p>1-3-1 ホームページやパンフレットを通じて、引き続き、本学の教育研究成果や諸活動の情報を積極的に社会へ発信する。</p> <p>【経営情報学部先端経営学科】 1-4-1 各種審議会・研究会等へ教員が積極的に参画できるよう、学科内のこれまでの協力・支援体制を必要に応じて見直す。さらに教員やゼミ学生の参加を促す情報共有など拡充策も検討する。</p> <p>【経営情報学部システム情報学科】 1-4-2 教員に対し、外部コンテストや各種学会の研究会等へ参加するよう促し、同時にゼミ指導教員を通じて学生にもこれらに参加するように働きかける。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】 1-4-3 教員へは外部コンテスト、各種学会や研究会・審議会およびイベントへの積極的な参加を促す。また、学生が学会・研究会等の学生セッションへの参加のみならず、演題発表ができるようにサポートしていくよう働きかける。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】 1-4-4 各種審議会・研究会へ各教員が参画できるように促し、代講やチームティーチング等に対応できる体制を引き続き検討する。</p>	<p>教育・研究助成の成果を本学のシーズとしてホームページで公開する準備を進めたが公開には至らなかった。情報の更新にともない、ホームページやパンフレットの記載内容を追加・修正し、地域社会へ発信する準備を進めたが公開・作成には至らなかった。</p> <p>また2019年11月7日、11月8日に開催される北海道最大級のビジネスイベントである「ビジネスEXPO」に出展し、本学の活動をアピールした。</p> <p>【経営情報学部先端経営学科】 教員は江別市の審議会・研究会には継続して積極的に参加してきた。ゼミ学生や学科の1、2年生も自治体活動に参加した。</p> <p>【経営情報学部システム情報学科】 いくつかの研究室では、学生が外部コンテストに参加し、学会発表を行った。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科】 教員へは外部コンテスト、各種学会や研究会・審議会およびイベントへの積極的な参加を促した。また、学生が学会・研究会等の学生セッションへの参加のみならず、演題発表ができるようにサポートを行い、演題発表した内容については、学術雑誌への投稿支援を行った。診療情報管理専攻では、日本診療情報管理学会大会（大阪）や医療情報連合大会（千葉）、医療情報技師学会（江別市）へ参加した。臨床工学では、北海道体外循環セミナー、新さっぽろロハスマラニック、学外医療実習、北海道手術医学研究会、北海道マラソン2019 ボランティア、千歳サーモンマラニック2019 ボランティア、北海道臨床工学会に参加した。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】 チームティーチングやオムニバス授業の実施による効果があり、学外活動への参加の難しさが若干緩和された。</p>
<p>2 ICTを通じた産学連携研究を推進し、地域の要請に応じる。</p>	<p>2-1 地域社会との連携及び産学連携活動として展開する研究活動等の支援体制・評価体制を整備・実施することに努める。</p> <p>2-2 地域社会において学習ニーズの高い分野について、大学が組織として地域と連携しながら、教育資源の提供を行う。</p>	<p>2-1-1 地域連携・産学連携センター運営委員会を開催し、さらなる支援体制・評価体制の整備・充実について検討する。</p> <p>2-2-1 江別市や教育委員会等と連携して公開講座や出前授業を行う。</p>	<p>地域連携・産学連携センターの業務に「えべつ未来づくりプラットフォームに関する取組・実施」を加え、同時に、えべつ未来づくりプラットフォーム事務局会議構成員を地域連携・産学連携センター運営委員会委員から選出した。</p> <p>江別市主催「えべつ市民カレッジ連携講座」と連携することにより、本学の公開講座を広く市民向けに提供した。また、例年江別4大学が連携して実施している「ふるさと江別塾」を10月5日に本学で開催した。</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
3 教育面での社会及び地域との連携を強化する。	3-1 教育における地域連携を実施、推進する。	3-1-1 地域の企業や各種団体でのインターンシップやボランティア、地域連携イベント等を推進する。	本学学生は、地域の企業や各種団体が主催するイベントに積極的に参加した。また、学生地域定着推進広域連携協議会や江別市内外の企業、団体などの要請に基づき、本学の学生へ学外プロジェクトやインターンシップ等の情報を提供し、大学と地域は双方向に人的交流を行った。
4 研究面での社会及び地域との連携を強化する。	4-1 研究における地域連携を実施、推進する。	4-1-1 地域に対する相談手段を設置し、共同研究等の地域連携をより一層推進する。	地域の企業や各種団体からの相談に応じ、共同研究等の新たな展開を検討した。地域に対する相談窓口を産学官連携部門の藤本部門長に決定し、共同研究などの地域連携を推進した。
5 図書館サービスを学外に開放し地域住民への生涯学習活動支援に努める。	5-1 地域情報資料コーナーの充実や近隣公共図書館との交流を促進し、学外利用者の利用を促進する。	5-1-1 昨年度に引き続き地域情報コーナーの充実を図り、地域住民へのサービス向上に努める。 5-1-2 知の拠点として、本学の特徴ある専門分野に関する資料や研究成果を近隣公共図書館や地域住民に提供する方策を検討するとともに、地域住民の利用促進をはかる。	地域情報コーナーの充実を図るため、地域の歴史に関わる資料の収集に努めた。 地域住民の利用促進を図るため、「情報」や「プログラミング」に関する図書を充実した。
(3) 国際交流に関する目標			
1 海外大学との提携拡大と国際交流・海外研修・海外留学プログラムを拡充する。	1-1 協定締結校等との交流状況を調査・評価し、評価結果に応じ、取組の強化や協定の見直しを行う。 1-2 本学の一層の国際化を目指し、大学間交流、学生交流、研究者交流を促進する。	1-1-1 協定締結校等との交流状況を調査・評価し、評価結果に応じ、取組の強化や協定の見直しを行う。 1-2-1 協定締結校との交流状況を調査・評価した上で、大学間交流、学生交流、研究者交流の促進を検討する。	協定の見直しを行う必要性はなかった。2019年度末時点の海外協定締結校は、6ヶ国13大学である。 協定締結校との大学間・学生交流は、次の通り実施した。 ①中国南京大学：8月11日～9月1日 （本学4名、専学1名 合計5名） ②アメリカポートランド州立大学：8月13日～9月4日 （本学2名、専学4名 合計6名） ③中国大連東軟信息学院：9月2日～9月15日 （本学8名、専学2名 合計10名） ③タイ国ラジャマンガラ工科大学：共同Workshop 8月28日～9月6日（タイ18名、本学19名） ④マレーシアUCSI大学：9月1日～9月9日（本学10名） なお、9月9日成田経由で帰路につく予定が、成田発の飛行機が欠航により、9月10日羽田発に振り替えた。
2 留学生の受入れを促進する。	2-1 本学の留学情報の発信を強化して優秀な留学生の受入れに努める。 ・留学生の確保(国際化戦略) 現在1.5%→5%(+12名) このため、奨学金の充実を図る。 ・英語による授業の実施	2-1-1 インターネット等を活用し、留学情報の発信を強化するとともに、留学生の確保戦略に係る奨学金の充実化方策について検討する。	2018年から中国で普及しているSNS、Weiboに本学のページを作り、本学留学生の様子を適宜発信・継続中である。

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
3 学生及び教員による国際交流を推進し、充実させる。	3-1 海外での語学研修の充実と、日本の文化等に関心のある外国人留学生の受け入れにより、学生の異文化への関心を高めることを図る。	3-1-1 「国際コラボレーション」、「海外事情(米国編)」、「海外事情(中国編)」、「大連東軟信息学院短期留学プログラム」、「マレーシアUCSI大学語学研修」を引き続き実施する。また、ホームページに公開するなどして広く学生及び学外に伝える。実施内容については必要に応じて改善を図る。	海外事情をはじめとする短期留学プログラムは、予定通り実施できた。また、大学ポर्टレートの更新を行うなど学外への情報発信を行った。今後も情報発信に努める。
		3-1-2 日本の文化等に関心のある外国人留学生の受け入れについて検討する。	江別市観光課企画「留学生対象市内バスツアー」に本学の留学生が参加し、後日参加学生からSNSを通じて、日本文化や北海道ならびに本学の良さについて情報発信した。
	3-2 単位互換等による交換留学制度を整備し、学生の国際交流の育成を図る。	3-2-1 単位互換等による交換留学制度について検討する。	交換留学生制度については、2020年度も継続して検討することとした。
4 世界に本学の教育研究の特徴を知らしめるように英語等での情報発信を充実させる。	3-3 外国人留学生の日本語能力の向上を支援する体制の充実を図る。	3-3-1 在籍している外国人留学生を対象に日本語能力試験JLPT2級の受験対策講座を実施するなど、留学生向けの日本語教育の充実を図る。	7月と12月に実施される日本語能力試験に向けて、N2対策講座を実施した。
	4-1 インターネットを活用し、特色あるカリキュラムや教育システムを海外に知らしめるために英語等によるコンテンツの企画、作成を図る。	4-1-1 現在公開している「3つの研究教育重点分野に関する情報」について、必要に応じて更新する。	公開中の「3つの研究教育重点分野に関する情報」を更新した。
5 国際的に活躍できる人材を育成する。	4-2 国際交流・留学生受け入れに関する情報を容易に取得できるように、Webページを整備する。	4-2-1 国際交流・留学生受け入れに関する情報を整備し、外国語で紹介するコンテンツを作成し、インターネットを活用して海外に発信する。	留学生受け入れ情報の整備とコンテンツ作成の実現には至らなかった。2020年度は、情報の整備と合わせ、Webコンテンツの作成を目指す。
	5-1 学内での語学力や異文化理解の強化を目的としたプログラムを実施する。	5-1-1 外国人留学生と日本人学生がコミュニケーションを取りながら異文化交流できるプログラムを実施する。	コミュニケーション能力の向上と異文化交流を目的に、国際交流・留学生支援課を交流の場にする 것을検討した。2019年度はその一つとして、室内のレイアウト変更や協定校からの土産品を陳列する飾棚を設置するなど、国際交流らしい雰囲気づくりを行った。2020年度はさらに発展させ、日本人学生と留学生の交流の場を実現し、異文化交流を通して日本語と中国語の能力向上を図る。
	5-2 海外(東南アジア等)へのインターンシップを検討する。	5-2-1 (海外インターンシップは、時期尚早のためペンディングとする。)	(海外インターンシップは、時期尚早のためペンディングとする。)

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
	5-3 英語による教育科目を増加させ、留学生・日本人学生の国際性を涵養する。(再掲)	【FD委員会】 5-3-1 引き続き、授業全体を英語で実施する科目、一部を英語で実施する科目というように、タイプを分けつつ、英語による教育科目を増やすための検討を続けていく。一部を英語で行う科目は、先行的に実施していけるように具体的に検討する。	【FD委員会】 完全英語化は「グローバルヘルスリテラシー」のみであるが、科目廃止が決まった。英語化への取り組みの実態について、学内教員へのアンケート調査を行った。本学学生の英語力についての教員の問題意識がある程度明らかになったことに加え、新たに英語での授業を行うことについて前向きな専門教員もいることがわかった。この結果を踏まえて、上位学生向けの科目開講に向けて、2020年度以降も検討を継続する。

IV 管理運営に関する目標

(1) 管理運営体制の改善に関する目標			
1 建学の理念に基づき、大学の進むべき方向を戦略的にまとめ、全学的視野に立った機動的な大学運営の遂行に努める。	1-1 情報を核とした4つの機能を果たすために、理事会、評議員会、教育研究評議会、教授会等が協調し、教育・研究・社会貢献に関する基本戦略を定める。	1-1-1 学長のリーダーシップの下、機動的、効率的かつ外部の意見を活かした戦略的な組織運営の充実を引き続き図っていく。 1-1-2 引き続き、HIU Vision 2020及び第2期中期目標・中期計画の進捗状況を踏まえて、教育研究及び社会貢献に関する基本戦略を検討していく。	社会の要請に応えるものとなっているのかを含め、理事会や評議員会の外部委員からの意見を積極的に反映しながら、大学運営の充実を図った。 HIU Vision 2020及び第2期中期目標・中期計画の進捗状況を、年度計画の中間評価にて確認しながら進めた。 また、第3期中期目標・中期計画を策定するための前段階として「HIU Vision 2025」を策定するため、点検評価委員会の下に「HIU Vision 2025策定専門委員会」を設置した。
	1-2 最適な資源配分と機動的な運営体制の確立を図る。	1-2-1 最適な資源配分のため、予算編成のたびに執行状況を提示して予算配分調整を行う。さらに、当初予算と前年決算額の比較分析を行い、最適な資源配分を検討、調整する。 ・機動的な運営体制確立のため、業務量の変化、職員の昇格、移動等のたびに運営体制の見直しを行い、適宜、運営体制、要員の変更を行う。	・第1次及び第2次補正予算作成時、各部署へ予算執行状況表を提示するとともに、第1次及び第2次補正予算打合せを行い、予算配分調整を行った。 ・機動的な運営体制見直しのため、職員の異動、昇格のたびに、運営体制見直しを行った。
2 情報の一元管理を行う。	2-1 教育関連のシステム、ポータルサイト、学生管理システム等のシステム統合を図り、情報の一元化を行う。	【大学事務局】 2-1-1 情報センターの体制見直しも含めて検討を行なう。 【情報センター事務局】 2-1-2 引き続き新学園総合情報システム(campus2)と他システムとの一層の連携を進める。	【大学事務局】 情報センターにホームページ管理部門専門委員会を設置して、大学公式ホームページの速やかな管理運営を行えるようにした。 【情報センター事務局】 情報センター教育情報システム部門専門委員会が学内システムの更新について調整管理できる体制を整えた。

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
3 ガバナンス改革を充実する。	3-1 学長のリーダーシップ、学長を補佐する体制等、ガバナンス改革を充実する。	3-1-1 より一層学長のリーダーシップの確立や学内組織の運営・連携体制の整備が図れるよう、各種委員会等の運営状況を確認しながら、ガバナンスの体制の点検、見直しを行い、必要に応じて改善する。	教育研究戦略委員会において、「各学科のディプロマ・ポリシーを満たす卒業生を送り出すことができるカリキュラム」を大前提とした2021年度カリキュラム改正の基本方針を決定し、教育研究評議会において学則改正を行った。また、本学の最重要課題である定員の充足については、学科ごとの取組をまとめた上で、積極的な広報活動の取組を展開した。さらに、学生にとって「履修しやすい時間割」の作成方針を協議・決定し、教務委員会において具体的な進め方等を検討し、実施していくこととした。
(2) 教育研究組織の見直しに関する目標 1 人材育成に関する社会のニーズを的確に反映し、高度な職業人養成を中心とした実践的な教育研究を行う。	1-1 時代に即した改組・改編の提言を行うための柔軟な組織作りを検討する。 1-2 カリキュラム及びキャリア教育について定期的に見直す。	1-1-1 学長のリーダーシップの下、教育研究戦略委員会において、大学運営に関する諸活動の情報収集・分析を行うとともに、教育研究に関する中長期的な計画を含め、戦略的運営の充実を引き続き図っていく。 1-2-1 新しい教育方法検討小委員会カリキュラム改善WGでの検討内容を各学科等と共有する。	人材育成に関する社会のニーズに柔軟に対応するため、2021年度から医療情報学部医療情報学科の「診療情報管理専攻」を「医療情報専攻」に名称変更し、新たに「医療情報エンジニアコース」を設けることとし、文部科学省に学則変更の届出を行った。 また、2021カリキュラムの基本方針を決定した。 新しい教育方法検討小委員会カリキュラム改善WGを中心に、enPiTへの参加、CDIO及びeスポーツの調査から得られた成果を整理して、FD・SDフォーラムの資料に掲載することで、結果を各学科等と共有した。正規科目ではないキャリアサポートの在り方については、関連部署との連携、検討を続ける。
2 適正な学部、学科、専攻、コースの構成と定員がそれぞれの教育研究の目的の実現に相応しいかどうかを定期的に確認する。	2-1 適正な学部、学科、専攻、コースの構成と定員がそれぞれの教育研究の目的の実現に相応しいかどうかを定期的に確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・現行制度、システムの維持・改善 ・学部・学科の入学定員と入学者数のバランスの調整を図る。 ・医療情報学部医療情報学科臨床工学分野の設置(再掲) 	【経営情報学部先端経営学科デジタルビジネス専攻】 2-1-1 実践的かつリアルなビジネス直結の学習内容とするべく外部の企業や他大学連携を柔軟に行える学科、専攻、コースの構成と定員を必要に応じて見直し改善する。 【経営情報学部システム情報学科システム情報専攻、宇宙情報専攻】 2-1-2 システム情報専攻と宇宙情報専攻の設置が計画どおり実行されているかを点検する。必要に応じて見直し、改善する。 【医療情報学部医療情報学科診療情報管理専攻、臨床工学専攻】 2-1-3 診療情報管理専攻、臨床工学専攻の2専攻3コースでカリキュラム編成を継続して検討し、必要であれば見直ししていく。	【経営情報学部先端経営学科デジタルビジネス専攻】 2021年度カリキュラム改正基本方針で専攻を「ビジネスデザイン専攻」と「地域ビジネス専攻」とし、コースも「ビジネスデザインコース」と「地域ビジネスコース」として科目群を「ビジネスデザインコース」と「地域ビジネスコース」の2系統と実践プロジェクトのゼミナールで体系化した。実践的かつリアルなビジネス直結の学習内容を各科目とゼミナールに取り入れることとした。 【経営情報学部システム情報学科システム情報専攻、宇宙情報専攻】 これら専攻の設置に関し、問題は起こっていない。2021年度カリキュラムの策定において、専攻の下にあるコースを見直し、改善を図った。 【医療情報学部医療情報学科診療情報管理専攻、臨床工学専攻】 診療情報管理専攻、臨床工学専攻の2専攻3コースのカリキュラム編成について、2専攻共通の科目および各専攻に対応する科目について社会状況を考慮した体制を整えるよう検討した。

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
	<p>2-2 女性教員の増員を図る。</p> <p>3 通信教育における教育研究拠点として相応しい教育研究活動を支援する体制の拡充及び活性化に努める。</p> <p>4 大学院の教育研究体制の整備・充実する。高度教育研究機能と大学院の充実を図り、博士課程への道筋を立てる。</p>	<p>【医療情報学部医療情報学科診療情報管理専攻】 2-1-5 診療情報管理コースと健康情報科学コースに対応できる体制を整え、学生の目標を早期に決定できるよう方向性を提示する。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科臨床工学専攻】 2-1-6 引き続き北海道臨床工学技師会、日本臨床工学教育施設協議会との連携強化を行う。また、高校訪問・模擬講義・出前授業を行い、学生の確保と国家試験への対策を行う。また、カリキュラムの再検討を行う。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】 2-1-4 2020年度からのコースの変更が十分か否かを検討する。</p> <p>2-2-1 各学科等における教員採用人事は、女性教員の増員を図ることを考慮しながら進めるとともに、働きやすい環境づくりについても検討する。</p> <p>3-1-1 遠隔教育の方法や仕組みについて調査・研究を行い、生涯教育及び地方創生の学びの場のツールとしての通信教育の機能の検討を行う。</p> <p>【研究科委員会】 4-1-1 博士課程設置について検討する。</p>	<p>【医療情報学部医療情報学科診療情報管理専攻】 診療情報管理コースと健康情報科学コースに対応できる体制を整え、学生の目標を早期に決定できるよう方向性を提示した。医療分野での人工知能と情報技術の利用へと政策転換が図られていることから、新たに医療のビッグデータの解析・利用やシステム構築等のできる人材育成について検討を行い、医療とシステムエンジニアの両方の知識を有する学生の育成について検討を行った。</p> <p>【医療情報学部医療情報学科臨床工学専攻】 引き続き北海道臨床工学技師会、日本臨床工学教育施設協議会との連携強化を行った。また、高校訪問・模擬講義・出前授業を行い、学生の確保と国家試験への対策を行った。また、学生の学力向上に向けたカリキュラムの再検討も行った。</p> <p>【情報メディア学部情報メディア学科】 2020年度からのコースの変更について、高校生や広報職員の意見を集めた結果、賛否があり今後も検討をすることとした。</p> <p>教員の公募要領に「本学は男女共同参画を推進している」ことを記載し、女性の積極的な応募を求めた。今後も、継続して女性教員の増員を進めていくこととした。</p> <p>個人認証システムの調査及び検証作業をMEC（メディア教育センター）と共同で行った。今後はインターネット試験の実施方法に関するガイドラインの作成を行うなど、遠隔授業の在り方について検討を行う。</p> <p>【研究科委員会】 過年度から博士課程設置について調査してきたが、設置は当面凍結する方向となった。</p>
(3) 組織倫理・危機管理に関する目標			

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
1 社会的な公器とされる大学により一層の社会的ルールの遵守が求められるなかで、組織倫理の確立とコンプライアンスを推進し、全学的な安全管理体制を構築する。	1-1 目標を達成するための啓蒙活動により教職員のモラル向上への活動を進める。 1-2 危機管理マニュアルを整備し、組織倫理の確立と危機管理能力を向上させる。 1-3 定期的に危機管理のための訓練及び研修等を実施するとともに、新たな危機管理に対応するマニュアルの作成・改訂を進める。	1-1-1 身近で具体的なものをテーマとしたコンプライアンス啓蒙活動を継続して推進する。特に、研究関係のコンプライアンス活動とも連携して啓蒙活動内容精査を検討する。 1-2-1 危機管理マニュアルについて、必要に応じて見直しを行う。 1-3-1 全学的な火災訓練を実施すると共に、SD研修として危機管理に関する研修会等を計画する。	大学で行っているコンプライアンス啓蒙活動との統合を考えて、大学側コンプライアンス担当と調整を行い、研究関係は大学担当とした。 昨年度に発生した北海道胆振東部地震を踏まえて、危機管理マニュアルの大幅な見直しを行った。 今後も必要に応じて見直しを行うことにした。 ・2019年9月18日に全学的な火災訓練を行った。 ・危機管理に関するSD研修としては7月11日にヒグマ対応に関する研修会を実施した。
2 セキュリティポリシーの実質化を行う。	2-1 セキュリティポリシーへのつとり、各部門の責任者を明確にし、セキュリティの維持を図るとともに、講習会を実施する。 2-2 サイバー攻撃に対する防御を検討し、実施する。	2-1-1 個別運用マニュアルを完成させ、そのマニュアルを遵守することでセキュリティの維持を図る。また情報セキュリティに関する講習会を計画・実施する。 2-2-1 学内サーバの脆弱性の把握に努め、順次対策を行う。	3月に情報セキュリティに対する講習会（eラーニング）を全教職員を対象に実施した。 文部科学省主催の情報セキュリティ研修に参加し、サイバー攻撃に対する防御とインシデント発生時の対処について学び、学内の情報セキュリティの向上について務める基礎とした。
3 教育研究環境の安全・衛生管理対策と安全教育を充実する。	3-1 国の感染症対策の動向を踏まえ、新型インフルエンザ等新たな感染症に、近隣の自治体と連携しつつ迅速かつ適切に対応する。 3-2 安全管理意識の向上のために、基礎的な講習会を実施する。	3-1-1 感染症の動向を常に把握することに努めるとともに、近隣地区で発生した場合には、学生教職員に注意を促す。また、本学で発生した場合には、対策マニュアルを基に迅速に対応する。 3-2-1 安全管理意識の向上を目指すと共に、健康診断及びストレスチェックの受診率100%を目指す。	文部科学省からの要請を受け、教職員の定期健康診断時に風疹抗体検査を実施するとともに、希望者に対して、健診時に麻しん抗体検査を受診できるようにした。 ・健康診断及びストレスチェック未受診者に対し、メール等で受診勧奨を行い、受診率の向上を図った。 ・教職員の健康意識向上のため、9月13日にSD研修会「キャンパスにおける身体のケア」を実施した。
(4) 教職員人事と適正配置に関する目標			
1 大学としての社会的使命を果たすために、教員情報の開示とともに、教職員の能力が最大限に発揮できるような適正かつ弾力的な人事管理に努める。	1-1 教育研究機能や学生支援機能を充実させるため、教職員の適正な人事考課及び人事考課に基づく処遇を検討し、効果的な人事制度を確立する。	【法人本部・大学事務局】 1-1-1 教員の人事考課制度及び人事考課に基づく処遇を検討する。	【法人本部・大学事務局】 教員の人事考課制度について、他大学の情報を収集するなどした。

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
		<p>【法人本部】 1-1-2 事務職員に対する新人事制度の理解、浸透のため、考課説明の徹底及び補完資料(面接票等)の充実を図る。</p>	<p>【法人本部】 新人事制度での課題、改善点を、新人事制度による考課のたびに洗出しを行った。合わせて、補完資料(面接票等)の見直しを行った。</p>
<p>(5) 事務等の効率化・合理化に関する目標 1 私立大学法人として適切な事務組織を確立し、効率化・合理化を積極的に進める。 2 業務の合理化や事務組織の機能充実について検討し、改善を図る。 3 事務の多様化・複雑化に対応した職員研修の充実を図る。</p>	<p>1-1 限られた資源の有効活用及び効率的な事務の実行実現に向けて、業務全般の権限と責任の所在を明確にする。 1-2 事務処理の在り方、事務職員の適正な配置を行う。 2-1 業務を恒常的に点検し、簡素化、効率化による業務の合理化の改善を図るとともに、機能的・機動的な事務組織となるよう事務組織の機能充実について検討する。 3-1 事務の多様化・複雑化に対応した職員研修の実施等推進するとともに、各種業務に対応した学外研修への参加を促す。</p>	<p>1-1-1 業務状況の変化、要員体制の変更等に伴う、事務組織見直しに伴う、各組織の権限と責任の明確化及び権限と責任の変更を継続して実施する。 1-2-1 各部署の行事予定及び業務一覧をもとに、事務職員の適正な配置について、役員による検討を実施し、組織に反映させ、規程等の改訂も検討する。 2-1-1 定型業務について業務毎のマニュアル追加だけでなく、業務変更等でのマニュアル更新を継続して行う。 3-1-1 職員研修促進のため、担当業務に該当する社外研修案内等を個別に担当部署に連携する。 3-1-2 SD部門において、計画的に職員研修を企画・実施する。</p>	<p>・第1次及び第2次補正予算作成時、各部署へ予算執行状況表を提示するとともに、第1次及び第2次補正予算打合せを行い、予算配分調整を行った。 ・機動的な運営体制見直しのため、職員の異動、昇格のたびに、運営体制見直しを行った。 (再掲) 事務職員の適正な配置については、役員において常時検討しており、早い段階で組織に反映するよう努めている。さらに、組織変更が発生した場合、組織内での業務分担見直し、規程等の改訂等も行った。 定型業務の業務マニュアルの見直し、更新を定期的に行った。 事務局長に研修情報を集約して、随時、関連業務職員の研修会への参加を呼びかけた。 7月2日「ハラスメント防止」、7月4日「Academic File講習会」、7月11日「ヒグマとの付き方」、9月6日「ACROBAT講習会」、9月13日「キャンパスにおける身体のケア」、3月にeラーニング「情報セキュリティチェックテスト」などの研修会を実施した。</p>
<p>(6) 広報活動に関する目標</p>			

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
1 大学における情報公開の義務化を受け、受験生中心の広報活動だけでなく、本学の教育研究の現状や成果について広く社会に広報する活動を強力に推し進める。	1-1 インターネットその他の媒体を効果的に利用して積極的な情報公開を行うために、教員組織、事務組織が一体となって情報公開を進めるためのシステム作りを行う。 1-2 大学ポータルサイトのメンテナンス体制を整備し、積極的な広報を推進する。	1-1-1 広報連絡協議会が中心となって、全学的な広報活動を推進する。 1-2-1 大学ポータルサイトメンテナンス体制の継続的運用を行うとともに、運用中に改善点があれば随時、改善を行っていく。	情報センターにホームページ管理部門専門委員会を設置して、大学公式ホームページの速やかな管理運営を行えるようにした。(再掲) 定められたメンテナンス体制のもとに年度更新作業を実施し、7月末に大幅な改修を完了した。
(7) 歴史資料の収集・整備に関する目標	1-1 平成元年の建学から25年を経過し、北海道情報大学の歴史資料としてのデータ、情報等を収集し、デジタル化等整備することにより、歴史資料の散逸を防止する。	1-1-1 引き続き歴史的資料のデジタル化を進める。	引き続き資料のデジタル化を進める。開学から保存している写真データの80%をデジタル化した。
V 財務に関する目標			
(1) 資産の運用管理に関する目標			
1 大学が保有する資産の点検・評価をもとに、資産の有効活用を図る。	1-1 資産の点検・評価を行う公正な組織を構築し、それぞれの特性に応じた効率的な運用を行うとともに、十分に活用されていない資産を洗い出し、それら資産の活用と運用の体制を構築する。	1-1-1 前年に検討した短期資産運用見直しに沿って、複数担当者体制で、利息、安全性、元本保証に配慮した短期資産運用を開始する。	短期資産運用については複数担当者体制に移行し、検討を行った。但し、世界的金利安の影響で、安全性と元本保証を重視した短期資産運用を一部開始した。
(2) 外部研究資金その他自己収入の増加に関する目標			
1 質の高い研究を推進するために、科学研究費補助金やその他の競争的研究資金等の獲得に向けて積極的に取り組む。	1-1 科学研究助成金やその他の競争的資金等の獲得に向けて積極的に取り組む。	1-1-1 2018年度に実施した取り組みを継続するとともに、リサーチアドバイザーのより一層の活用策を引き続き検討し、当面は、若手研究者を中心に科研費申請件数の増加を目指す。また、研究助成金等の募集情報について、常に閲覧可能となるような仕組みを構築し、積極的に情報提供していく。	リサーチアドバイザーによる申請書のチェックを継続して実施し、科研費の申請及び採択件数の向上に向けて、積極的な活用推進を図った。また、研究助成金等の募集情報を蓄積した閲覧可能なサイトは、構築に向け作業を進めていたが、メンテナンス等の対応も考慮した結果、現在行っているE-mailによる通知を引き続き行うこととした。
2 大学財政の健全化のために欠かせない競争的研究資金、受託研究費、寄附金等外部資金の一層の獲得を図るとともに、自己収入の増加に努める。	2-1 自律的な大学運営を行うために自己収入を増加させるために、外部資金導入に関する情報の収集と公開を進め、積極的な獲得活動を展開する。 ・外部研究費、寄附金の確保	2-1-1 外部資金導入のための環境整備と獲得のための情報提供を積極的に進める。	大学事務局、法人本部間の情報連携を継続して実施した。

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
	<p>2-2 科学研究費補助金等の競争的研究資金への申請を奨励し、公募情報を積極的に各教員へ提供するとともに採択に向けての助言・指導等の取組みを実施する等、申請に係る支援を組織的に強化する。</p> <p>2-3 イノベーションの創出を推進するため、研究支援の取組を強化するとともに、公募型競争的資金等獲得のための施策を実施する。</p>	<p>【教育研究振興事業委員会】 2-1-2 寄附金確保のため、教育研究振興事業委員会にて、既存寄附者(大学教職員、同窓生、eDCグループ社員)への継続的なPR活動を行う。また、既存寄附者以外へPR方式の検討を行う。</p> <p>2-2-1 2018年度に実施した取組みを継続するとともに、リサーチアドバイザーのより一層の活用策を引き続き検討し、当面は、若手研究者を中心に科研費申請件数の増加を目指す。また、研究助成金等の募集情報について、常に閲覧可能なような仕組みを構築し、積極的に情報提供していく。(再掲)</p> <p>2-3-1 研究の実施や支援体制をより一層強化するとともに、競争的資金等の獲得や学外機関との共同研究、受託研究の推進に向けて積極的に取り組む。</p>	<p>【教育研究振興事業委員会】 既存寄附者(大学教職員、同窓生、eDCグループ社員)への継続的なPR活動を行った。また、同窓会と調整を行い同窓会交流会にて趣意書を設置する等のPR活動を行った。</p> <p>リサーチアドバイザーによる申請書のチェックを継続して実施し、科研費の申請及び採択件数の向上に向けて、積極的な活用推進を図った。また、研究助成金等の募集情報を蓄積した閲覧可能なサイトは、構築に向け作業を進めていたが、メンテナンス等の対応も考慮した結果、現在行っているE-mailによる通知を引き続き行うこととした。(V(2)1-1-1再掲)</p> <p>私立大学研究ブランディング事業における研究アプローチの位置づけとして、学内研究の活性化並びにブランディング化を図るため、予算化を図り学内公募し、研究推進に向けて積極的に取り組み、支援体制を強化した。</p>
<p>(3) 経費の抑制に関する目標 1 管理運営費の一層の抑制に努める。</p>	<p>1-1 管理的経費の実態把握と効率的執行計画の検討</p>	<p>1-1-1 当初予算と前年決算額の比較分析等により、業務別、用途別管理経費の調査を行い、支出項目を見直し、経費抑制に努める。</p>	<p>前年決算額をもとに他大学との比較分析等により、業務別、用途別管理経費の調査を実施した。</p>
<p>(4) 施設設備の整備・活用に関する目標 1 良好な教育研究環境を維持するため、施設・設備の計画的な整備及び維持管理を行う。 2 キャンパス環境のより一層の整備・保全を行うとともに、設備の活用に努める。</p>	<p>1-1 適切な整備及び維持管理を計画的に実施する。 2-1 計画的な維持管理を行うための組織的な仕組みを構築し、きれいで清潔な環境の整備とともに、安全性・信頼性を基本に、教育・研究体制の変化に対応する柔軟で計画的な施設整備を行う。</p>	<p>1-1-1 第Ⅱ期保全計画(2016年度～2020年度)のうち、2019年度保全工事を実施する。工事優先度等の詳細項目については、保全計画実施前に、大学、法人合同の年度別保全計画実施項目調整会議を行い、柔軟な施設整備を実施する。(再掲)</p> <p>【法人本部】 2-1-1 第Ⅱ期保全計画(2016年度～2020年度)のうち、2019年度保全工事を実施する。工事優先度等の詳細項目については、保全計画実施前に、大学、法人合同の年度別保全計画実施項目調整会議を行い、柔軟な施設整備を実施する。(再掲)</p>	<p>・保全工事実施前に大学・法人合同で2019年度保全工事実施項目調整会議を行い、保全工事項目の調整、決定を行った。 ・上記、会議結果を踏まえ、7月より保全工事に着手し、9月末に完了した。(再掲)</p> <p>【法人本部】 ・保全工事実施前に大学・法人合同で2019年度保全工事実施項目調整会議を行い、保全工事項目の調整、決定を行った。 ・上記、会議結果を踏まえ、7月より保全工事に着手し、9月末に完了した。(再掲)</p>

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
	2-2 女子学生に配慮した設備、環境を整備する。	2-2-1 女子学生に配慮した設備・環境の整備についての計画を立案し、実施を推進する。	女子寮については、2018年のボイラー設備の改修工事に続き、2019年度は外装の工事を行うなどの整備を実施した。

VI 自己点検評価、外部評価及び情報提供

(1) 評価の充実に関する目標			
1 原則として5年毎に中期目標・中期計画を定め、毎年度これに基づく年度計画を定める。	1-1 平成28年度から5年間の中期目標・中期計画に基づく学校運営及び教育研究を着実に進めるとともに、平成32年度に次期中期目標・中期計画を作成する。	1-1-1 2019年度の年度計画の達成状況を踏まえ、2020年度の計画を策定する。	2019年度の年度計画の達成状況を踏まえ「2020年度計画」の策定案を2020年2月10日開催の点検評価委員会において審議・承認後、3月26日開催の理事会に附議し承認後、「2020年度計画」として本学ホームページに公表した。
	1-2 各年度ごとに点検・評価項目を定め、実施結果を公表し、教育研究の活性化等に反映する。	1-2-1 各年度ごと自己点検評価項目を定め、自己点検評価を実施するとともに、PDCAサイクルを有効に機能させる。	2019年度計画の進捗状況及び達成状況について、各担当部門から報告願い、9月末現在の中間評価として2019年10月28日開催の点検評価委員会において、着実に実行していることを確認した。また、未実施等の事項については、年度計画達成に向けて取り組むよう依頼し、PDCAサイクルを有効に機能させた。
2 中期目標・中期計画及び年度計画に対する達成状況の自己点検評価を実施し、定期的に自己点検評価書の作成・公表を行う。	2-1 毎年度、中期目標・中期計画及び年度計画に対する達成状況の自己点検評価を実施する。	2-1-1 2019年度計画の達成状況に関して自己点検評価を実施し、未達成の計画の取扱いを検討する。	2019年度計画の進捗状況及び達成状況について、各担当部門から報告願い、9月末現在の中間評価として2019年10月28日開催の点検評価委員会において、着実に実行していることを確認した。未実施等の事項については、2019年10月28日、2020年2月10日開催の点検評価委員会において、年度計画達成に向けて取り組むよう依頼した。また、2019年度計画年度末評価については、5月開催の理事会に附議し承認後、本学ホームページに公表する。
	2-2 原則として2年毎に、自己点検評価報告書を作成し、公表する。	2-2-1 2019年度に、2018年度版自己点検評価報告書を作成し、公表する。	2019年度に、2018年度版自己点検評価報告書を作成し、公表した。
3 自己点検評価書に基づき、本学独自の外部評価を実施し、評価結果を公表する。	3-1 自己点検評価報告書に基づく外部評価を実施する。	3-1-1 2021年度までに全般について自己点検評価を行い、その妥当性について、本学が設置する外部評価委員会で評価するための計画を検討する。	本学が設置する外部評価委員会で評価するための計画を検討することとした。

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
4 機関別認証評価は、7年以内に、継続的な自己点検評価と外部評価に基づいて受審する。	4-1 平成28年度に、大学機関別認証評価を受審する。 4-2 平成35年度に、大学機関別認証評価を受審する。	4-1-1 引き続き、大学機関別認証評価実地調査時の提案事項や評価報告書における「改善を要する点」、「参考意見」等について、適切に取り組む。 4-2-1 次回(2023年度)受審に備え、3つのポリシーを起点とする内部質保証システム(PDCAサイクル)を各学科単位で確立し、教育に関する内部質保証を確立していく。	大学機関別認証評価実地調査時の提案事項や評価報告書における「改善を要する点」、「参考意見」等について、各関係部署において対応を検討していくこととした。 次回受審に備え、3つのポリシーを起点とする内部質保証システム(PDCAサイクル)を各学科単位で確立し、教育に関する内部質保証を確立していくこととした。
5 自己点検・評価結果及び第三者評価結果を踏まえて、教育研究の質の向上及び業務運営等の改善を図る。	5-1 評価結果に対する改善措置について、「点検評価委員会」等において検討して実施する。	5-1-1 引き続き、評価結果を踏まえ、改善措置等を検討していく。	評価結果を踏まえ、改善措置等を検討していくこととした。
6 HIU Vision 2020の戦略及び中期目標・中期計画を着実に実行するための評価システムを構築する。	6-1 HIU Vision 2020及び中期目標・中期計画の戦略的マネジメントツール、実行支援・評価ツールとしてバランスト・スコアカード(BSC)の導入について検討・実施する。	6-1-1 引き続き、バランスト・スコアカード(BSC)の導入に当たっての手順について検討し、策定する。	バランスト・スコアカード(BSC)の導入について、再吟味することとした。
(2) 情報公開等の推進に関する目標			
1 開示が義務化された教育情報及びその他の教育情報について公表を推進する。	1-1 教育情報の公表を着実に推進する。	1-1-1 大学のイメージを社会に浸透させるため、継続して情報公開・情報発信に努める。	大学ホームページを介して情報公開に努めているとともに、2019年5月1日現在の情報に更新して公開した。また、大学ポータルについても情報を更新して公開した。さらに、私立大学研究ブランディング事業の取り組みとしてブランド力向上を目指した情報発信を行った。
2 財務情報・経営情報の公開を推進する。	2-1 財務情報・経営情報の公開を着実に推進する。	2-1-1 補助金申請における公開情報条件、他大学状況、文科省動向等、最新状況の把握に努め、現状公開方式、様式等の改善点の洗い出しを行い、財務情報・経営情報の公開を推進する。	・補助金申請だけでなく、私立学校法改正に伴う情報公開内容、体制等の変更に合わせて、2020年度よりの公開情報の体制を含めて更新、確認等の作業を行なった。 ・学費無償化対応での情報公開については、大学と連携をとり、文科省要件に沿った情報公開を実施した。
3 研究成果や地域連携関係の情報の公表を推進する。	3-1 研究成果及び地域連携関係の情報を、積極的に公表する。(再掲) 3-2 教員や大学院生等の研究成果及び学生の社会貢献活動の成果に係る情報を収集し、発信するシステムを構築して、本学の教育研究活動の状況を幅広い対象に紹介する取組を行う。	3-1-1 地域連携・産学連携センターのホームページを活用し、学内の研究・教育成果をシーズとして公開するとともに、地域連携関係の情報を継続的に公表する。 3-2-1 教員や大学院生等の研究成果及び学生の社会貢献活動の成果に係る情報を引き続き収集し、本学シーズ集の改訂や増補をはじめ、情報発信の機能を強化する。	ホームページを活用し、平成28年度以降の教育・研究助成の成果をシーズとして公開すること、および地域連携活動の情報を公表する準備を進めた。 地域連携・産学連携センターのホームページに設けた研究成果や社会貢献活動の成果に係るコーナーにおいて、本学の教育研究活動の状況を積極的に情報発信した。

中期目標	目標を達成するための中期計画(措置)	2019年度計画	2019年度計画年度末評価
4 大学ポータルによる情報の発信を行う。	4-1 大学ポータルの更新を行うとともに、積極的な情報発信に努める。	4-1-1 大学ポータルメンテナンス体制の継続的運用を行うとともに、運用中に改善点があれば随時、改善を行っていく。(再掲)	定められたメンテナンス体制のもとに年度更新作業を実施し、7月末に大幅な改修を完了した。(再掲)
Ⅶ その他の業務運営に関する目標			
(1) 法令遵守に関する目標			
1 教職員の法令遵守の意識の向上を図るために、定期的な研修・教育を実施する。	1-1 基本的なルールを理解し、内部統制を有効に機能させるために研修会を開催する。 1-2 情報セキュリティ及びコンプライアンスを推進する。 1-3 研究費等の不正使用防止について、より効果的・効率的な公的研究費等の運営・管理を行う。	1-1-1 身近で具体的なものをテーマとしたコンプライアンス啓蒙活動を継続して推進する。特に、研究関係のコンプライアンス活動とも連携して啓蒙活動内容精査を検討する。(再掲) 1-2-1 SD研修として、情報セキュリティやコンプライアンスに関連するテーマでの研修会を実施する。 【会計課】 1-2-2 競争的資金等における研究費のコンプライアンス教育として、コンプライアンス推進責任者が中心となり、研究業務に従事する教職員に対して教育を実施する。また、年度内に3回以上のコンプライアンス推進会議を開催し、教育方法等について、計画、実施、評価、改善を行う。 【会計課】 1-3-1 競争的資金等における研究費の不正使用防止対策として、不正使用防止計画推進室が中心となり、年度内に3回以上の不正使用防止計画推進室会議を開催し、その中で不正使用防止計画を見直す。また、競争的資金監査室とも連携し、研究費の不正使用が発生しづらい環境を醸成していけるよう運営・管理を行う。	大学で行っているコンプライアンス啓蒙活動との統合を考えて、大学側コンプライアンス担当と調整を行っている。(再掲) 情報セキュリティに関する研修会（eラーニング）を全教職員を対象に実施した。 【会計課】 コンプライアンス推進会議は持ち回り委員会を含め、計5回開催した。コンプライアンス研修会の実施内容について協議し、コンプライアンス研修会を計5回行い、研究者及び研究業務に従事する教職員等合計64名に対して実施した。また、会議ではコンプライアンス研修会の教育方法等について、計画、実施、評価、改善を行った。 【会計課】 不正使用防止計画推進室会議は持ち回り委員会を含め、計5回開催した。会議では競争的資金等監査室から2019年度競争的資金の監査計画についての報告や、会計課で実施した非常勤職員の勤務実態調査の実施報告、不正使用防止計画の実施状況結果報告、並びに2020年度に向けての不正使用防止計画の策定を行った。